

目 次

	頁
農業経営部の教育計画	
Ⅰ 教育方針	1
Ⅱ 主要な教育事項	1
Ⅲ 専門教育を学ぶにあたって	
1 水田経営学科で学ぶにあたって	3
2 野菜経営学科で学ぶにあたって	3
3 果樹経営学科で学ぶにあたって	4
4 花き経営学科で学ぶにあたって	4
5 畜産経営学科で学ぶにあたって	4
Ⅳ 履修方法	
1 履修に関する基本事項	5
2 授業時間帯	5
3 休業日	5
4 授業時間数と単位の計算	5
5 教育課程と講師	5
6 履修計画	6
7 履修に関する注意事項	6
8 定期試験	6
9 単位認定及び進級認定、卒業認定	6
令和4年度農業経営部履修計画及び担当講師	7
令和4年度履修科目及び学校行事	9
令和4年度農業経営部外来講師一覧	10
10 実習－卒論研究学習	11
別表1 実践学習体系	13
別表2 実習計画	14
Ⅴ 講義要項	
1 共通教養科目	19
2 専門科目（全経営学科共通）	26
3 専門科目（水田・野菜・果樹・花き経営学科共通）	38
4 専門科目（水田経営学科）	42
5 専門科目（野菜経営学科）	45
6 専門科目（果樹経営学科）	48
7 専門科目（花き経営学科）	51
8 専門科目（畜産経営学科）	54
Ⅵ 年間行事	63

農業経営部の教育計画

I 教育方針

1 教育目標

実践的な農業の技術力と優れた経営力を備えた地域のリーダーとなる農業者を育成する。

2 教育の方向

- (1) 農業経営の実践に必要な知識及び技術に関する教育を行う。
- (2) 地域をリードする農業経営者に必要となる経営管理に関する教育を行う。
- (3) 国際的な視野に立ち農業情勢の変化に対応できる農業経営に関する教育を行う。

II 主要な教育事項

農業者として必要な実践能力を身に付けるため、以下の事項について学科ごとに講義・演習、実験、校外での研修を含めた実習を有機的に関連させながら農業経営に必要な知識、技術を習得する。

実践的経営シミュレーションを専門教育の柱に据え、学生が割り当てた農場区画(ほ場・ハウス、果樹、家畜等)において、生育や成長あるいは気象に応じた生産管理を実践するとともに、加工・販売までの一連の体験を通して農業経営の判断力を身に付ける。

1 一般的な教養に加え、農業経営に関する基礎的知識の習得

学生の動向や時代のニーズを踏まえ、基礎学力レベルに応じ、きめ細かな指導により学習意欲を高めるとともに、それぞれの分野における専門家や有識者を講師として教養科目を履修し、幅広い教養を身に付ける。

また、就農への動機付けと自家就農または農業法人就職など進路に応じ、幅広く先進的な経営者から実践内容を直接見聞することにより農業経営の実践に必要なマネジメント能力を養成する。

2 農業に関する知識及び技術を習得

(1) 農業の基礎的知識及び技術の早期習得

非農家出身者や高校の農業課程以外からの入校生に配慮し、各学科に関する農学の基礎及び経営管理に関する基礎を入校当初から履修する。また、実習を通じて各学科ごとに必要となる基礎的作業や農機具の使用法、さらには栽培管理や飼養方法について習得する。

それぞれの地域で指導的立場にある農家において先進農家等留学研修を実施し実際に農家での生活や農作業を体験することで、農業経営全般についての理解を促進する。

(2) 専門的知識及び技術の習得

専門科目については、基礎から応用へと体系的に学習する。また、生産分野のみならず、加工技術や商品開発、さらには直接販売の実習を通じて地域産業6次化について学習する。

(3) 農業経営に必要な免許・資格の取得

農業経営を实践する上で必要となる免許や資格、法人への雇用就農時に求められる免許や資格を幅広く取得する。

3 経営シミュレーションによる総合的な実践力の習得

現場の課題をもとに、卒業論文テーマを設定し、自ら生産から販売まで一連のプロジェクトとして取り組み、経営シミュレーションの手法も取り入れながら総合的な農業経営を实践する力を習得する。

4 地域農業をけん引するために必要な知識の習得

農業経営を实践する上で必要となる地域資源活用法の習得や、地域内連携のために必要となるコミュニケーション能力について習得する。

5 国際化に対応した幅広い視野の習得

農業経営を实践するうえでは、国際化など農業情勢の変化に対応する必要があることから、先進的な経営者の実践事例の研究や海外農業の視察などを通して、幅広い視野を身につける。

6 農業短期大学の位置づけ

農業短期大学は、農業改良助長法に基づいて都道府県が設置している農林水産省所管の施設である。その役割は、文部科学省所管の大学と異なり、卒業後すぐに農業経営を展開できる実践力を身につけた農業者の育成にある。

このため農業経営部での学習は、実習を主体に専門的な知識と技能の習得に力点を置いており、農業は勿論、農業関係団体・企業などの幅広い職種にも十分に対応できる人材の養成を目指している。

また、学習内容は大学に準じて高い専門性を有するので、本校を卒業すると、国の人事院規則により文部科学省所管の短期大学卒業と同じ扱い(国家公務員採用時)とされている。

さらに、平成20年度からは学校教育法に基づく専修学校に位置づけられたことにより、本校を卒業後「専門士(農業専門課程)」の称号が与えられ、4年制大学の3年次等に編入学する試験を受験することができる。

Ⅲ 専門教育を学ぶにあたって

本校での2年間という限られた期間の中で、農業経営を実践できる知識と技術を身に付けるためには、受け身の学習態度ではなく、確固とした目的意識をもって勉学に励むことが大切である。

本校は、自ら問題意識を持ち、考えながら学習する主体的学習の場である。

講義は1学年では一般的な教養を高める教養科目、農業の基礎を幅広く習得する概論に加え専門分野の基礎を学習する専門科目からなり、2学年ではさらに詳しく専門分野を学習する経営各論等の専門科目から構成されている。

授業は、講義の他に演習、実験及び実習から成り立っているので、これらを関連づけながら総合的な農業経営の知識と技術を習得する。

1 水田経営学科で学ぶにあたって

水田経営学科では、土地利用型農業経営を実践するための高度な専門的知識や技術、経営管理等について学ぶとともに、実習や各種研修等を通じて実践力を習得する。

特に、土地利用型農業経営における近年の重要な課題である水田の有効利用を念頭に置き、地下水位制御システム（FOEAS）の活用を含めた田畑輪換や輪作体系について学ぶとともに、経営上不可欠な課題である省力化やコスト削減技術、消費者が求める安全・安心な農産物の生産、6次産業化に配慮した経営、スマート農業及びGAP（農業生産工程管理）の概要及び生産現場での対応等について学習する。

1学年では実習における多くの食用作物の栽培や加工を通して、基礎的な技術、観察力などを身につける。また、先進地研修や先進農家等留学研修等の実施により、実践的な経営感覚を養う。

2学年では稲作、畑作両分野のより専門的な講義と実習を一体的に履修し、水田の有効利用について高度な知識と技術を習得するとともに、卒業論文は稲作、畑作の選択制とし、栽培や調査研究を通して、それぞれの分野での高度な技術と経営感覚を醸成し、実践力を身につける。

2 野菜経営学科で学ぶにあたって

野菜経営学科では、県内で生産されている主要な品目を中心に、野菜栽培を行うために必要な知識や技術、経営管理等について習得し、本県野菜経営を担う人材を育成する。特に、省力化や高収益に関する知識や技術、消費者が求める安全・安心な農作物の生産、GAPの概要及び生産現場での対応について学習する。

これらの学習を効果的に実施するために、1学年では講義と実習を通して野菜栽培の基礎的な技術の習得と作物の生育の観察力を養成するとともに、先進農家等留学研修や県内研修等を通して先進技術を学習する。

また、2学年では、より専門的な講義と実習を通して野菜栽培について高度な知識と技術を身につけるとともに、卒業論文や調査研究を通して、課題解決能力や技術力と経営感覚を醸成し、実践力を身につける。

3 果樹経営学科で学ぶにあたって

果樹経営学科では、県内の主要果樹を中心に果樹栽培に関する知識と技術を習得し、本県果樹産業を担う人材を育成する。特に、高品質・安定生産や省力化等の先進栽培技術、果樹農業の担い手として生計を成り立たせる経営管理能力、環境保全型農業や安全・安心な生産・管理技術を身につけ、将来にわたって持続可能な果樹経営を学ぶ。また、GAPに関する教育の実践により、卒業後にこの即戦力となる人材を育成する。

このため、1学年では講義や実習を通し、果樹に関する基礎的な知識や技術を習得するとともに、先進農家等留学研修や県内外の先進事例調査研修を通じて果樹経営と果樹産業の情勢を体感する。

また、2学年では、より専門的な講義や実習を通し実践力を身につけるとともに、卒業論文調査研究を通じて、自らが考えて行動し課題を解決する能力や判断力を養い、地域農業や地域振興を担う人材を目指す。

4 花き経営学科で学ぶにあたって

花き経営学科では、花き経営を行う上で必要な知識や技術、経営管理等について学ぶとともに、実習や各種研修等を通じて営農や経営にかかる実践力を習得する。

そのため、高品質・安定生産技術をはじめ、切り花日持ち性向上への取組等を実践し総合的に学習する。

これらの学習を効果的に実施するために、1学年では、花き全般に関する基礎的な知識や本県の代表的な切り花、鉢物、枝物の生産技術や栽培理論について講義及び実習を通じて学ぶ。また、試験研究や先進農家の事例を学ぶとともに、花き市場での視察研修やフラワー装飾の実習を通じて流通から消費までの知識を学習する。

2学年では、より専門的な講義や実習を一体的に履修するとともに、卒業論文では学生自ら責任を持ち栽培管理から販売を行うことで、専門的な生産技術や経営感覚等を学び花き経営の担い手としての実践力を身につける。

5 畜産経営学科で学ぶにあたって

畜産経営学科では、自家への就農や農業法人への就職により農業経営を実践する人材を育成するため、乳用牛、肉用牛を対象とした家畜の飼養管理をはじめとして、自給飼料生産、耕種部門との連携、安全・安心な畜産物生産や付加価値を高める加工技術など、畜産経営に必要とされる専門的な知識や技術を学び、幅広く習得する。

このため、1学年では年間を通して乳用牛、肉用牛についての講義、演習、実験、実習を行い基礎的な実践力を養うとともに先進農家等留学研修や県内・県外での研修の実施など、畜産経営の現場を踏まえた基礎的な実践力を養う。

また、2学年ではより専門的な講義や実習を履修するとともに、卒業論文のテーマを乳用牛と肉用牛他畜産分野から課題を選択し、飼養管理の実践や調査研究を通してそれぞれの分野での高度な技術と経営感覚を醸成し、実践力を身につける。

さらに、畜産経営において必要とされる家畜人工授精師や大型特殊（農耕車に限る）などの資格、免許の取得を目指す。

IV 履修方法

1 履修に関する基本事項

履修課程は、講義による基礎理論教育と演習・実験による応用教育及び実習による実践教育からなり、農業に関する専門技術及び経営について履修する。

2 授業時間帯

1校時	8時50分～10時20分
2校時	10時30分～12時00分
3校時	13時10分～14時40分
4校時	14時50分～16時20分
5校時	16時30分～17時15分

3 休業日

授業を行わない日または期間は次のとおりである。

なお、休業日であっても講義、演習、実験、実習などの授業を行うことがある。

また、栽培管理・飼養管理や卒論研究などで学校に残って自主学習することもできる。

- (1) 日曜日、土曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する日
- (2) 長期休業(9週間)
- (3) 学校記念日(7月17日の属する週の金曜日)
- (4) 臨時休業日

4 授業時間数と単位の計算

- (1) 学期は、前期(4月から9月)及び後期(10月から3月)の2期制で行う。
- (2) 1時限を90分の授業で行い、2時間として計算する。
- (3) 科目の1単位は、次により計算する。

講義・演習科目	15時間
実験科目	30時間
実習科目	45時間

- (4) 科目の種類と卒業要件及び進級要件

ア 科目は、教養科目、共通専門科目、専門科目がある。科目、単位及び授業時間数は、「5 教育課程と講師」にある履修計画のとおりである。

イ 上記の科目のうち、自由選択科目を除いて、卒業までに全ての科目を、2学年へ進級するためには1学年で開講される全ての科目を修得(単位の認定)しなければならない。

5 教育課程と講師

- (1) 2年間で学習する科目、単位、時間数、履修時期、担当講師は次表(7～9頁)のとおりである。
- (2) 外来講師は、大学の教官や専門家が当たる(10頁)。

6 履修計画

- (1) 学年制を採用し、1学年次に履修する科目と2学年次に履修する科目が定まっている。したがって、1学年で履修する科目を2学年で履修することや、この逆はできないので、着実に履修することを必要とする。
- (2) 教養科目は主に1学年で履修する。専門科目のうち基礎的な科目については1学年当初から履修が始まり、1学年後期からは学科ごとの応用、実践に関する専門科目を履修する。
- (3) 履修区分は、全員が必ず修得する必修科目と各人が任意に選択して修得する選択科目とからなる。選択科目は、必ず修得しなければならない択一選択科目と任意に受講できる自由選択科目がある。
各種資格取得に向け自由選択科目が開講されるので、将来を見据え積極的にチャレンジする。

7 履修に関する注意事項

- (1) 各科目において、開講時間数の5分の4の出席に満たない学生は、定期試験の受験資格がないので、単位を取得できない。
- (2) 各科目別に指示された履修方法に従って履修する。これに反する履修は認められない。
- (3) 指定された履修年次で単位を取得しないと、以降の年次での履修ができない。
- (4) 授業カリキュラムは、月間教育計画及び週間教育計画に分けられ、翌月及び翌週の教育計画は当月及び当週の後半に掲示される。
- (5) 学生への通知は、全て本館の学生掲示板に掲示する。

8 定期試験

- (1) 定期試験は、学期(前期及び後期)ごとに開講した科目についての試験である。
- (2) 再試験は、定期試験を受験できなかった学生に対する試験である。
- (3) 追試験は、定期試験及び再試験において50点未満の学生に対する試験である。

9 単位認定及び進級認定、卒業認定

- (1) 単位の認定は次による。
 - ア 各科目において、開講時間数の5分の4以上を出席する。
 - イ アを満たした場合、学期(前期、後期)ごとの定期試験を受験する。
 - ウ イの結果、50点以上(100点満点)で単位を認定する。
- (2) 進級及び卒業については、校内会議で決定される。

令和4年度農業経営部履修計画及び担当講師

科目区分	学科	科目名	単位数	授業時間数			授業回数(時限数)				担当講師	
				講義・演習	実験	実習	1学年		2学年			
							前期	後期	前期	後期		
共通教養科目	全学科共通	生物基礎	1	15			7				校内	
		化学基礎	1	15			7				柳沼力夫	
		数学基礎	1	15			7				校内	
		国語表現Ⅰ	1	15			7				國分進	
		国語表現Ⅱ	1	15				7			國分進	
		国語表現Ⅲ	1	15					7		國分進	
		人間と社会	1	15					7		佐々木篤信	
		体育	4	60			14	6	7	3	高萩孝平	
		教養講座	1	15			3	4			校内(外部講師)	
		(択一選択)就農講座Ⅰ	2	30					14			校内
		(択一選択)農業法人等就職講座Ⅰ										校内
		(択一選択)就農講座Ⅱ	1	15						7		校内
		(択一選択)農業法人等就職講座Ⅱ									7	
		① 小計			15	225	0	0	45	31	28	3
共通専門科目	全学科共通	農業経営	2	30					14		津谷好人	
		農業経営演習	2	30						14	三部会計事務所、校内	
		農業法規	2	30						14	本庁	
		農業関連産業論	1	15			5	2			校内、外部講師	
		簿記概論	3	45			22				居川陽明、校内	
		農業情報処理基礎	2	30					14		志間幸恵(講義)、校内(演習)	
		農業情報処理応用	1	15						7	志間幸恵	
		農業情勢Ⅰ	1	15					7		藤澤弥榮	
		農業情勢Ⅱ	1	15						7	本庁	
		土壌肥料概論	2	30			14				佐藤紀男	
		農業機械	2	30			14				校内	
		農業機械基礎実習	1			45	6	16			校内	
		農業機械操作実習Ⅰ	1			45			22		校内	
		マーケティング論	1	15						7	西元良行	
		マーケティング演習	2	30						14	西元良行	
		食品製造	1	15					7		郡司尚子	
		スマート農業実践	1	15					7		校内、外部講師	
		GAP概論	1	15					7		校内、外部講師	
		卒業論文	10	150					15	30	30	校内
		(自由選択)簿記検定講座	2	30					14			居川陽明
(自由選択)毒物・劇物取扱解説	1	15					7			柳沼力夫		
(自由選択)毒物劇物取扱者資格講座	1	15					7			校内		
(自由選択)農業機械操作実習Ⅱ	1			45				22		校内		
② 小計(自由選択科目を除く)			37	525	0	90	68	61	80	86		

科目区分	学科	科目名	単位数	授業時間数			授業回数(時限数)				担当講師
				講義・演習	実験	実習	1学年		2学年		
							前期	後期	前期	後期	
専門科目	水田野菜果樹花き学科共通	農業概論	2	30		14				校内	
		作物保護	2	30			14			佐々木正剛、センター研究員	
		植物生理	1	15		7				校内	
		環境保全と農業	2	30					14	佐藤紀男	
		有機農業	1	15				7		センター研究員	
		農産物流通	1	15					7	津谷好人	
		農学実験	1		30	8	6			校内	
		③ 小計	10	135	30	0	29	20	7	21	
	水田経営学科	先進農家等留学研修	5			225	44			校内	
		水田経営研修	2			90	10	12	19	4	校内
		作物経営実習	25			1125	140	130	195	97	校内
		水田経営基礎	2	30			14				校内
		水田経営応用	2	30				14			校内
		水田経営実践	2	30					7	7	校内
		食品製造演習	2	30					14		校内
		④-1 小計	40	120	0	1440	208	170	221	108	
	野菜経営学科	先進農家等留学研修	5			225	44			校内	
		野菜経営研修	2			90	10	12	19	4	校内
		野菜経営実習	25			1125	140	130	195	97	校内
		野菜生産概論	2	30			14				校内
		野菜栽培各論	2	30				14			校内
		野菜経営各論	2	30					7	7	校内
		食品製造演習	2	30					14		センター研究員
		④-2 小計	40	120	0	1440	208	170	221	108	
	果樹経営学科	先進農家等留学研修	5			225	44			校内	
		果樹経営研修	2			90	10	12	19	4	校内
		果樹経営実習	25			1125	140	130	195	97	校内
		果樹生産概論	2	30			14				校内
果樹栽培各論		2	30				14			校内	
果樹経営各論		2	30					7	7	校内	
食品製造演習		2	30					14		センター研究員	
④-3 小計		40	120	0	1440	208	170	221	108		
花き経営学科	先進農家等留学研修	5			225	44			校内		
	花き経営研修	2			90	10	12	19	4	校内	
	花き経営実習	25			1125	140	130	195	97	校内	
	花き生産概論	2	30			14				校内	
	花き栽培各論	2	30				14			校内	
	花き経営各論	2	30					7	7	校内	
	フラワー装飾演習	2	30					14		中村良美	
	④-4 小計	40	120	0	1440	208	170	221	108		
水田、野菜、果樹、花き経営学科共通必修科目合計(①、②、③、④)			102	1005	30	1530	350	282	336	218	

科目区分	学科	科目名	単位数	授業時間数			授業回数(時限数)				担当講師
				講義・演習	実験	実習	1学年		2学年		
							前期	後期	前期	後期	
専門科目	畜産経営学科	畜産概論	1	15			7				校内
		家畜育種学	1	15					7		國分洋一
		家畜繁殖学Ⅰ	1	15					7		校内
		家畜繁殖学Ⅱ	2	30						14	校内
		家畜栄養学	1	15			7				土屋友充
		家畜衛生学	1	15					7		中央家保
		畜産環境保全	1	15					7		校内
		家畜解剖生理学	1	15			7				二瓶由佳
		家畜解剖実験	1		30		14				中央家保
		先進農家等留学研修	5			225	44				校内
		畜産経営研修	2			90	10	12	19	4	校内
		畜産経営実習	25			1125	132	138	188	104	校内
		乳用牛・肉用牛概論	2	30			14				校内
		飼料作物	1	15						7	土屋友充
		食品製造演習	2	30					14		ノーベル、校内
		(択一選択)乳用牛飼養管理技術応用	2	30					14		校内
		(択一選択)肉用牛飼養管理技術応用									
		(択一選択)乳用牛経営	1	15						7	校内
		(択一選択)肉用牛経営									
⑤ 小計			50	255	30	1440	235	192	235	122	
畜産経営学科 必修科目合計(①、②、⑤)			102	1005	30	1530	348	284	343	211	

備考

- 1 授業時間は、1時限を90分の授業で行い、2時間として計算する。
- 2 1単位当たりの授業時間は、講義・演習については15時間、実験については30時間、実習については45時間とする。
- 3 択一選択については2科目から1科目を選択するものとする。
- 4 自由選択については、それぞれの科目を履修すること又は履修しないことを選択をすることができるものとする。

令和4年度履修科目及び学校行事

区分	単位数	授業時間数			授業回数(時限数)		備考
		講義・演習	実験	実習	1学年	2学年	
履修科目 (必修科目、自由選択科目の合計)	107	1065	30	1575	660	576	必修科目 102単位 自由選択科目 5単位
学校行事	—		180		51	39	入校式、健康診断、避難訓練、環境美化、樺隆祭、卒業式等
合計	107		2850		711	615	

備考

カリキュラムについては、学生掲示板の月間教育計画、週間教育計画で確認すること。

令和4年度農業経営部外来講師一覧

講師名	所属または経歴
柳沼力夫	元日本大学工学部助教授
國分進	ケイセンビジネス公務員カレッジ講師
佐々木篤信	会津大学名誉教授
高萩孝平	元高等学校教員
津谷好人	宇都宮大学名誉教授
居川陽明	税理士 税理士法人イカワ会計副所長
志間幸恵	有限会社シップス取締役 シップスパソコンスクール主宰
藤澤弥栄	福島大学特任研究員
佐藤紀男	元県職員
西元良行	福島大学名誉教授
郡司尚子	郡山女子大学准教授
佐々木正剛	福島県植物防疫協会 飯坂試験地 業務執行理事
中村良美	フラワースタジオPOCO A POCO主宰
國分洋一	元県職員
土屋友充	元県職員
二瓶由佳	獣医師

10 実習－卒論研究学習

主体的に学習に取り組むため、一人一農場・区画を基本とし生産から販売まで一連の過程を実践するプロジェクトにより農業経営力を身につける学習を展開する。その成績を卒業論文としてまとめ、経営者感覚を磨く。

そのため、実習は季節性や作業時間に柔軟に対応し、必要な農作業については時間外や休日も対応するものとする。

(1) 実践学習体系 別表1

(2) 実践学習内容 別表2

ア 経営学科実習

1年次は、学科毎に、ほ場、施設を活用しての基本技術の習得を重点とする。さらに卒業論文を進めるための調査手法を習得する。

2年次は、卒業論文の取組を進めながら、栽培技術等の実践学習を深める。

イ 卒業論文研究

営農に必要な基礎的知識、技術の習得と自主的に学習に取り組むため、卒論課題設定－試験計画樹立－実践－評価の流れで、自ら設定した課題の調査研究を実施する。

1年次

卒論課題設定	試験計画樹立
--------	--------

 我が家の営農の現状や地域農業の現状、技術動向を踏まえ、作成する。

2年次

実	践	評	価
---	---	---	---

 調査記録等を整理しながら、計画的に調査を進め、職員の指導のもと、成績を解析、まとめをする。

(ア) 完成した論文は定められた期日までに所属学科長に提出する。

(イ) 評定は、次の基準により判定される。

ア) テーマに関連のある基本的な文献及び資料をそしゃくし、論文の整理において自分なりの論旨を展開できていること。

イ) 論文構成(視点、展開、結論)において創造的であること。

(ウ) 記述項目は次のとおり。

- 1 表紙 (卒業論文課題名、所属学科、氏名)
- 2 目次
- 3 はじめに (ねらい等)
- 4 材料と方法
- 5 試験結果 (図・表を含む)
- 6 考察
- 7 要約 (摘要)
- 8 資料

- (エ) 提出された卒業論文(原本)は、各学科で保管し、必要に応じて関係者に閲覧できるように整理し、永年保管する。また、課題名一覧を別途作成し保管する。
- (オ) 後述の卒業論文発表会(全体)に向けて、2年次の12月に学科別卒業論文概要発表会を実施する。この発表会には、校長、副校長(農業経営部長)のいずれかが立ち会うように配慮し、発表要旨については卒業論文発表会に準じて作成する。
- (カ) 卒業論文発表会
- ア) 日 程：2年次の12月
 - イ) 発表時間：1人当たり発表10分、質疑応答5分、計15分
 - ウ) 発表会：各学科代表
 - エ) 発表方法：口述とし、資料提示にはプロジェクター、パソコン等を使用する。
 - オ) 発表要旨：A4判用紙の4枚程度(縦長、横書き、5枚を限度)とし、卒業論文記述項目の1、3～6の項目で整理し、印刷・配付する。
 - カ) 参 加：1学年、2学年の学生及び教務職員全員参加とする。
 - キ) 代表者選定：卒業論文発表者の中から次の代表者を審査・選定する。
「東日本農業大学校等プロジェクト発表会・交換大会」(3課題、1月中旬)
- (キ) 提出された論文は論文集としてまとめ、原文のまま印刷・作成し、提出者等に提出のあった年の3月に配付するとともに、学校に保管する。

別表1 実践学習体系

学年	時期	〔教育目標〕	〔到達目標〕	〔教育内容〕
1 学年	4 月 ～ 6 月	<p>適応力養成期間</p> <p>教育目標 自主性の養成(自立心と協調性の醸成)</p> <p>到達目標 実践を通して学習の目標を持つ</p> <p>1)経営学科実習を通し、農業の基礎を学ぶ 2)実践学習の特徴を理解し、目標を持つ</p>		基礎実習
	7 月 ～ 3 月	<p>実践力養成期間</p> <p>教育目標 主体性・実践力の養成 (学習意欲の高揚)</p> <p>到達目標 農業の魅力を実感し 将来の経営目標を設定</p> <p>1)プロジェクト学習の基礎を学ぶ 2)学習のまとめ、分析の基礎を学ぶ 3)海外農業研修で国際感覚を養う</p>		<p>先進農家等留学研修</p> <p>海外農業研修</p> <p>卒業論文計画</p>
2 学年	4 月 ～ 6 月	<p>実践力アップ期間</p> <p>教育目標 豊かな人間性と主体性の確立 (リーダーシップの確立)</p> <p>到達目標 主体的な取組により、実践学習の効果を高める</p> <p>1)卒業論文を通じ、農業者としての課題解決手法を位置づける 2)卒業論文の作成や先進農業者事例を学び、経営感覚を養う。</p>		<p>卒業論文実施</p> <p>データ収集</p>
	7 月 ～ 3 月	<p>総括期間</p> <p>教育目標 実践力のある農業者の育成</p> <p>到達目標 優れた経営感覚の醸成</p> <p>1)卒業論文のとりまとめ、発表</p>		<p>中間検討</p> <p>卒業論文発表 (12月)</p> <p>卒業論文作成完了 (1月)</p>

別表2

実習計画〔水田経営学科〕

時期		実習内容			生産に付随して実施する内容	校外研修場所・内容	
月	旬	< 水稲 >	< 麦類 >	< 大豆 >	< ハレソ >	< カソ >	
4	上		精米作業				
	中	種子準備			ほ場準備 植え付け	水稲育苗法	
	下	播種					
5	上	ほ場準備	穂肥		中耕	植え付け	麦類出穂期調査
	中	移植	病害防除		中耕培土		水稲苗質調査 田植機の操作
	下	除草剤散布					
6	上	畦畔除草			ほ場準備 種子準備 播種	病害防除	水稲生育調査 水稲雑草調査 麦類成熟期調査
	中					病害防除	先進農家等留学(インターン)研修 (前期)
	下		収穫乾燥 調製		中耕培土		
7	上	畦畔除草				培土	
	中	病害防除			中耕培土	収穫	大豆開花期調査
	下	穂肥				除草 病虫害防除	校外研修 (先進的農業者)
8	上						水稲出穂期調査
	中						先進農家等留学(インターン)研修 (後期)
	下		病虫害防除				
9	上						
	中						
	下	収穫					
10	上	乾燥 調製					水稲収穫調製法 大豆成熟期調査
	中		種子準備 ほ場準備 播種				水稲収量・品質調査
	下			収穫乾燥 調製		収穫	
11	上						
	中						
	下					乾燥	
12	上						土壌分析演習開始
	中						卒業論文設計開始
	下						
1	上						水稲食味官能評価
	中						経営分析演習
	下						
2	上						卒業論文設計終了
	中						校外研修 (先進的農業者)
	下						
3	上						
	中		幼穂形成期 追肥				
	下				浴光催芽		

実習計画〔野菜経営学科〕

時期		実習内容								生産に付随して実施する内容	校外研修場所・内容							
月	旬	【果菜類】			【葉茎菜類】		【根菜類】											
		トマト	キュウリ	パセリ	キャベツ	ハクサイ	ダイコン	ニンジン	パセリ									
4	上	促成	夏秋	半促成	夏秋	キャベツ (初夏どり)	ハクサイ	ダイコン	ニンジン	パセリ	育苗ハウス管理 定植ほ場準備 定植							
	中										接木 仮植		定植	植付				
	下																	
5	上	促成	夏秋	半促成	夏秋	キャベツ	ハクサイ	ダイコン	ニンジン	パセリ	収穫・調製							
	中										定植		接木	定植	収穫			
	下																	
6	上	促成	夏秋	半促成	夏秋	キャベツ	ハクサイ	ダイコン	ニンジン	パセリ	収穫・調製 病害虫防除	先進農家等留学研修 (1年生)						
	中															は種		
	下																	
7	上	促成	夏秋	半促成	夏秋	キャベツ	ハクサイ	ダイコン	ニンジン	パセリ	収穫・調製 病害虫防除	県内研修						
	中																は種	
	下																	
8	上	促成	夏秋	半促成	夏秋	キャベツ	ハクサイ	ダイコン	ニンジン	パセリ	定植ほ場準備 定植	県内研修 先進農家等留学研修 (1年生)						
	中																は種	
	下																	
9	上	促成	夏秋	半促成	夏秋	キャベツ	ハクサイ	ダイコン	ニンジン	パセリ	収穫・調製							
	中																	
	下										は種							
10	上	促成	夏秋	半促成	夏秋	キャベツ	ハクサイ	ダイコン	ニンジン	パセリ	収穫・調製 接ぎ木 育苗ハウス管理							
	中										接木 仮植							収穫
	下																	収穫
11	上	促成	夏秋	半促成	夏秋	キャベツ	ハクサイ	ダイコン	ニンジン	パセリ		県外研修						
	中										定植							収穫
	下																	
12	上	促成	夏秋	半促成	夏秋	キャベツ	ハクサイ	ダイコン	ニンジン	パセリ	卒業論文計画作成							
	中																	
	下																	
1	上	促成	夏秋	半促成	夏秋	キャベツ	ハクサイ	ダイコン	ニンジン	パセリ	卒業論文計画作成							
	中																	
	下																	
2	上	促成	夏秋	半促成	夏秋	キャベツ	ハクサイ	ダイコン	ニンジン	パセリ	卒業論文計画作成 卒業論文研究の育苗 及び資材準備							
	中										接木 定植							
	下																	
3	上	促成	夏秋	半促成	夏秋	キャベツ	ハクサイ	ダイコン	ニンジン	パセリ	卒業論文計画作成 卒業論文研究の育苗 及び資材準備							
	中										は種							は種
	下																	

実習計画〔果樹経営学科〕

時期		実習内容					生産に付随して実施する内容	校外研修場所・内容
月	旬	リンゴ	ニホンナシ	モモ	ブドウ	カキ		
4	上						接ぎ木(切り接ぎ) 防霜対策 貯蔵花粉発芽率調査 花の採取・開葯 花粉の貯蔵	
	中	摘らい		結果母枝誘引				
	下	人工授粉		摘花				
5	上	人工授粉	摘果	摘果			着果管理 予備摘果	
	中	摘花 摘果	摘果	芽かき				
	下							
6	上						リンゴ・モモ・ナシ果実 肥大調査(収穫まで)	県内研修
	中							
	下	雨よけ被覆 摘らい 花穂整形 GA処理						
7	上	着色管理					修正摘果	
	中	夏季せん定	収穫		袋かけ			
	下							
8	上						ブドウ果実品質調査 ナシ果実品質調査 リンゴ防鳥対策	先進農家等留学研修 (1年生)
	中	収穫		収穫	摘果			
	下	着色管理	収穫					
9	上	収穫				接ぎ木(芽接ぎ)	県内研修(果樹研)	
	中	秋季せん定						
	下							
10	上						カキ果実品質調査	県外研修
	中							
	下	収穫 脱洗処理						
11	上						リンゴ果実品質調査	
	中							
	下							
12	上	耕種の防除(落葉処理・粗皮削り)					基肥施肥 花芽分化率調査	
	中							
	下	せん定						
1	上							
	中							
	下							
2	上	側枝誘引						
	中							
	下							
3	上	結果母枝誘引					土壌改良資材散布	
	中	摘らい						
	下							

実習計画〔花き経営学科〕

時期		実習内容							生産に付随して実施する内容	校外研修場所・内容
		<露地切り花>			<施設切り花>		<苗物、鉢物>			
月	旬	アスター	ダリア	キク	キンギョソウ	宿根カスミンウ	苗物	シクラメン		
4	上	は種	挿し芽	収穫	収穫		は種	鉢上げ	育苗ハウス管理 挿し芽用土作成 定植ほ場準備 鉢物用土作成	
	中									
	下									
5	上		定植						定植ほ場準備 一年草の定植 球根類の定植 苗物用土作成	
	中	定植		定植			育苗			
	下									
6	上								花壇苗定植準備	県内研修 先進農家等留学研修 (1学年)
	中				定植		出荷	鉢上げ		
	下									
7	上								切り花収穫・調整・出荷 切り花品質調査 病害虫防除	
	中						ハンジー			
	下	収穫					は種			
8	上				は種				切り花収穫・調整・出荷 切り花品質調査	先進農家等留学研修 (1学年)
	中	収穫		収穫			育苗			
	下		収穫		定植					
9	上								切り花収穫・調整・出荷 切り花品質調査	
	中									
	下									
10	上								切り花収穫・調整・出荷 苗物・鉢物出荷調整	県外研修
	中						出荷			
	下							出荷		
11	上					収			球根類の堀上げ・貯蔵 キク親株ほ場準備	
	中			親株移植						
	下									
12	上								冬期ハウス管理	
	中									
	下				収			は種		
1	上								育苗管理	県内研修
	中									
	下				収			育苗		
2	上								卒業論文計画作成	
	中									
	下									
3	上								育苗管理	
	中									
	下									

実習計画〔畜産経営学科〕

時期		実習内容			生産に付随して実施する内容		研修場所・内容
月	旬	家畜飼養管理	自給飼料生産		家畜飼養管理	自給飼料生産	
			牧草	トウモロコシ			
4	上	飼料給与 健康状態把握			・飼料の種類と給与方法 ・日常管理における健康状態の把握 ・搾乳作業の手順と意義 ・耳標装着、除角の目的	・飼料作物収穫機械の種類 ・トウモロコシの播種作業と品種 ・除草剤散布の意味	
	中	搾乳(乳)	収穫機等の調整	播種準備 播種と除草剤散布			
	下	耳標装着・除角					
5	上	初乳給与	1番草収穫		・初乳給与の目的 ・哺育期における飼養管理	・牧草の収穫作業	
	中	哺育期飼養管理					
	下						
6	上	搾乳衛生管理(乳) 発情観察			・搾乳作業における衛生管理 ・発情の兆候と行動の観察 ・梅雨時期の飼養管理	・牧草の収穫適期の判断	
	中						
	下		2番草収穫				
7	上	体尺測定 育成前期の飼養管理			・標準発育曲線 ・牛の審査 ・子牛の育成前期における飼養管理 ・分娩の兆候と介助		・飼養管理研修 (県内家畜市場)
	中	調教 分娩兆候と分娩介助					
	下						
8	上	乾乳期の飼養管理	雑草防除		・乾乳期における飼養管理 ・暑熱対策	・雑草の種類 ・トウモロコシの収穫適期	
	中	牛舎環境の制御					
	下			トウモロコシ収穫調製			
9	上	泌乳初期の飼養管理(乳)			・泌乳初期における飼養方法 ・肥育におけるビタミンコントロールの必要性		
	中		3番草収穫				
	下	ビタミンコントロール					
10	上		イタリアンライグラス播種		・肥育度の調査方法 ・子牛の育成後期における飼養管理	・牧草の播種準備 ・稲わら収集方法	・牛乳の加工・流通 研修(県中)
	中	肥育度把握(肥)	稲わら収集				
	下	育成後期の飼養管理					
11	上			堆肥散布	・周産期の飼養管理	・堆肥の施用方法	・飼養管理研修 (枝肉調査、県外)
	中	周産期への対応					
	下						
12	上	飼料設計			・飼料給与計画の作成 ・削蹄の目的と方法		
	中	削蹄					
	下						
1	上	人工授精と交配 家畜排せつ物の処理			・人工授精の目的 ・卒業論文設計(1学年)	・堆肥化の方法	・飼養管理・繁殖 技術研修(県南)
	中						
	下						
2	上		自給飼料関係機械整備			・自給飼料生産・収穫調製機械 の整備	
	中						
	下						
3	上						
	中						
	下						

注:表中の(乳)は乳用牛、(肥)は肉用牛肥育に関する内容。

V 講義要項

1 共通教養科目

科目名	生物基礎	区分	共通教養科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	生物学の基本的な概念や原理原則を習得し、科学的な見方や考え方を身に付ける。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 生物の特徴		(1) 生物の多様性と共通性 (2) 細胞 (3) エネルギーと代謝 (4) 光合成と呼吸			1 2 3 4	
	2 遺伝子とそのはたらき		(1) 遺伝情報とDNA (2) 遺伝情報の複製と分配 (3) 遺伝情報の発現			5 6 7	
使用テキスト	『視覚でとらえる生物図録』数研出版						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験、学習態度、課題提出						

科目名	化学基礎	区分	共通教養科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	すべての自然現象には化学が介在していることから、化学的な物の見方や考え方を養い、生活に直接関係する事柄を通して化学の知識を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 物質の構成		(1) 原子、分子、イオン、化合物、原子量、分子量			1	
	2 物質の状態		(1) 物質の三態、状態変化、気体の性質			2	
	3 溶液		(1) 溶解と溶液、濃度、溶液の混合			3	
	4 酸と塩基		(1) 酸、塩基、塩、水素イオン濃度、中和			4	
	5 酸化と還元		(1) 酸化・還元反応、酸化数、イオン化傾向			5	
	6 元素の周期律		(1) 周期律、周期表、族の性質			6	
7 炭素化合物		(1) 有機化合物の分類、鎖式化合物、環式化合物			7		
使用テキスト	『わかりやすい毒物劇物取扱者試験』弘文社、配布資料						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	数学基礎	区分	共通教養科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	農業を实践する上で必要な面積・体積、肥料・農薬の施用量や希釈倍数、苗の植え付け本数等に関する計算方法を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 単位、面積と体積の計算		(1) 単位、図形の分類と面積・体積の計算			1	
	2 肥料の計算		(1) 施肥量の計算 (2) 計算の演習			2～3	
	3 農薬の計算		(1) 農薬の希釈 (2) 計算の演習			4～5	
	4 栽植密度の計算		(1) 栽植密度、植え付け本数 (2) 計算演習			6～7	
使用テキスト	配付資料						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	国語表現 I	区分	共通教養科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	書くことの基本技能を学び、実習や研修実施後等に、実施した内容を説明し、自分の感想、意見を記述する方法を習得する。報告書としての「レポートの書き方」の基礎を学び、実作を通して「レポートの書き方」を体得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 文章表現力の基本的事項		(1) 論文で求められるもの (2) テーマをとらえる			1 2～3	
	2 レポートの書き方		(1) 序の書き方 (2) 論文の全体構成 (3) 各セクションの構成			4～7	
使用テキスト	『書かずに文章がうまくなるトレーニング』サンマーク出版						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験、課題提出、学習態度						

科目名	国語表現Ⅱ	区分	共通教養科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	事実を客観的に説明する方法、意見を論理的に記述する方法を学び、与えられた課題に沿って説明文、論説文を作成する技術を習得する。さらに、社会人として必要な文章の書き方を体得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 客観的表現と論理的主張		(1) 論文作成の基礎 (2) 主題と構成 (3) 文章表現 (4) 論文作成のテクニック			1～2 3～5	
2 自己分析と意思表示		(1) 自己アピール文と志望理由書 (2) ビジネス文書の基本形			6～7		
使用テキスト	『基礎からのジャンプアップノート 記述力養成・小論文』旺文社						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験、課題提出、学習態度						

科目名	国語表現Ⅲ	区分	共通教養科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	2		
到達目標	示された資料(文章、図表、統計データ等)を材料として、資料から読み取れることを要約・説明する文章や資料内容に対する自分の意見を述べる文章を実習する。また、論文作成に係る一般的なルールについて習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 科学論文の書き方の基礎		(1) 文章材料、データの読み取りと論述			1～2	
	2 卒業論文の書き方		(1) 卒業論文のかたち (2) 卒業論文の全体レイアウト (3) 書き方の決まり (4) 注釈や引用文と引用・参考文献の本文中の示し方			3～4	
3 演習		(1) 前々年度卒業論文の添削演習等			5～7		
使用テキスト	『学生のレポート・論文作成トレーニング』実教出版						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験、課題提出、学習態度						

科目名	人間と社会	区分	共通教養科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	2		
到達目標	円滑な社会生活ができるよう人間の成長過程や社会における役割を理解する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 人間の共同生活-しくみとはたらき-		(1) 社会を知る、何のため? (2) 新型コロナウイルスと社会			1	
	2 家族		(1) 現代家族の特徴 (2) 家族の絆			2	
	3 地域社会		(1) 介護の現状と課題 (2) 循環型社会			3	
	4 職場		(1) 仕事のやりがい (2) 危機の乗り越え			4	
	5 現代社会とこころ		(1) 私の中の他人 (2) ネットを通して語る			5	
	6 社会的少数者		(1) 性的少数者 (2) 「ありのまま」生きる			6	
	7 危機管理		(1) 災害(自然、社会) (2) 危機管理とは			7	
使用テキスト	配付資料						
参考図書	その都度示す						
評価の要素	筆記試験、課題提出						

科目名	体育	区分	共通教養科目	単位	4	総時間	60
学 科	全経営学科共通			学 年	1・2		
到達目標	生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身に付ける。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1年						
	1 球技		(1) ゴルフ (2) バレーボール (3) バスケットボール (4) バドミントン (5) 卓球 (6) テニス			1～2 3～4 5～6 7～8 9～10 11～12	
	2 スポーツ大会					13～16	
	3 球技大会					17～20	
	2年						
1 スポーツ大会					21～24		
2 球技大会					25～30		
使用テキスト	無						
参考図書	無						
評価の要素	学習態度、技能、知識・思考・判断						

科目名	教養講座	区分	共通教養科目	単位	1	総時間	15
学科	全経営学科共通			学年	1		
到達目標	社会生活において求められる基礎的能力や社会常識、社会情勢等の学習を通して教養を身につける。また、国際的な素養として英会話の基礎的なコミュニケーション能力を身につける。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 校外専門家等による講義		(1) 税金・財政に関する知識 (2) 年金に関する知識 (3) 献血ボランティアと薬物乱用防止			1～3	
	2 英会話		(1) 基礎的なフレーズの演習			4～7	
使用テキスト	配付資料、『Passport1』Oxford出版						
参考図書	無						
評価の要素	課題提出、学習態度						

科目名	(択一選択) 就農講座 I	区分	共通教養科目	単位	2	総時間	30
学科	全経営学科共通			学年	1		
到達目標	農業者の講話や農業法人説明会を通じて農業に携わることへの魅力を発見させる。また、農業を担う地域社会のリーダーに相応しい基礎的な知識を習得し、就農にあたって必要になる公的支援や農地確保、制度資金等に関する知識の習得を目指す。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 農業に関連する制度、法規 (就農・就職共通)		(1) 税と農業経営に関する知識			1～2	
	2 農業講話 (就農・就職共通)		(1) 先進農業者講話			3～4	
	3 事例研究 (就農・就職共通)		(1) 農業法人説明会、関連産業説明会			5～8	
	4 社会的自立支援 I (就農・就職共通)		(1) 職業適性診断等			9	
	5 社会的自立支援 II (就農・就職共通)		(2) ワークルールに関する知識 (3) 新規就農にあたって必要となる知識等			10 11	
	6 業界研究 (就農・就職共通)		(4) 制度資金等に関する知識 (1) 各種業界の事業等、業務の視察			12 13～14	
使用テキスト	配付資料						
参考図書	無						
評価の要素	課題提出、学習態度						

科目名	(択一選択) 農業法人等就職講座Ⅰ	区分	共通教養科目	単位	2	総時間	30
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	農業者の講話や農業法人説明会を通じて農業関係の職業への就職の動機付けを図る。また、興味・関心等の自己分析や職務適性判断により適切な進路選択ができるようにするとともに就職活動に必要な知識や能力を養う。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1	農業に関連する制度、法規 (就農・就職共通)	(1) 税と農業経営に関する知識			1~2	
	2	農業講話 (就農・就職共通)	(1) 先進農業者講話			3~4	
	3	事例研究 (就農・就職共通)	(1) 農業法人説明会、関連産業説明会			5~8	
	4	社会的自立支援Ⅰ (就農・就職共通)	(1) 職業適性診断等			9	
	5	社会的自立支援Ⅱ (就農・就職共通)	(2) ワークルールに関する知識 (3) 就活スケジュールとエントリーシート等の書き方 (4) 契約行為等、金融に関する知識			10 11 12	
	6	業界研究 (就農・就職共通)	(1) 各種業界の事業等、業務の視察			13~14	
使用テキスト	配付資料						
参考図書	無						
評価の要素	課題提出、学習態度						

科目名	(択一選択) 就農講座Ⅱ	区分	共通教養科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	2		
到達目標	農業を担う地域社会のリーダーに相応しい基本的な知識を習得する。また、営農計画を作成する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1	就農支援制度について	(1) 就農支援制度と支援の要件 (2) 就農にあたっての準備に関する知識			1~2	
	2	就農計画作成	(1) 情報収集、事前準備 (2) 営農計画の作成			3~5	
	3	先進農業経営事例研究 (1年農業講話と共通)	(1) 先進農業者講話			6~7	
使用テキスト	配付資料						
参考図書	無						
評価の要素	課題提出、学習態度						

科目名	(択一選択) 農業法人等就職講座Ⅱ	区分	共通教養科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	2		
到達目標	農業関連職種の進路希望先を早期に選択して就職活動を積極的に行うことで進路希望達成を図る。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		小項目 (教授内容)			回	
	1 就職試験に向けて		(1) エントリーシート・履歴書に関する知識 (2) 面接試験対策			1～2	
	2 業界研究		(1) 進路希望先の業界研究 (2) 模擬面接			3～5	
	3 先進農業経営事例研究 (1年農業講話と共通)		(1) 先進農業者講話			6～7	
使用テキスト	配付資料						
参考図書	無						
評価の要素	課題提出、学習態度						

2 専門科目（全経営学科共通）

科目名	農業経営	区分	共通専門科目	単位	2	総時間	30
学科	全経営学科共通			学年	2		
到達目標	農業経営に必要な戦略や財務の基礎や一般的な知識について理解するとともに、実際の農業経営先進事例を学習する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 農業経営の基礎		(1) 緒論 (2) 農業経営の要素 (3) 農業経営組織 (4) 農業経営環境 (5) 農業経営の管理・運営 (6) 農業経営の法人化			1 2 3~4 5 6~7 8~9	
	2 農業経営の実際		(1) 先進事例講義			10~12	
	3 農業経営の発展計画		(1) 経営診断 (2) 経営計画、キャッシュフロー計画			13 14	
使用テキスト	『農業経営』実教出版						
参考図書	配付資料						
評価の要素	筆記試験、学習態度、課題提出						

科目名	農業経営演習	区分	共通専門科目	単位	2	総時間	30
学科	全経営学科共通			学年	2		
到達目標	事例研究により経営への理解を深めるとともに、経営プロセスの体験により経営管理能力を養成する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 ケーススタディ		(1) 基調講義 (2) 事例研究① (3) 事例研究② (4) まとめ			1~2 3~4 5~6 7	
	2 マネジメントゲーム		(1) 会計処理、決算 (2) 経営計画、経営戦略 (3) 市場取引、意志決定 (4) 収益性、安全性、生産性			8~14	
使用テキスト	配付資料						
参考図書	無						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	農業法規	区分	共通専門科目	単位	2	総時間	30
学科	全経営学科共通			学年	2		
到達目標	農業経営を実践する際に知識として必要となる関連法律について理解する。						
指導内容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 基礎的な法律	(1) 民法 (2) 食料・農業・農村基本法 (3) 農地法、農振法 (4) 農業経営基盤強化促進法、農地中間管理法 (5) 土地改良法				1～5	
	2 安全な農産物の生産に関する法律	(1) 食品衛生法 (2) 毒物及び劇物取締法 (3) JAS法、トレーサビリティ法、農産物検査法 (4) 農薬取締法、植物防疫法 (5) 計量法				6～10	
	3 農業生産に関連する法律	(1) 環境基本法、土壌汚染対策法、水質汚濁防止法 (2) 肥料の品質の確保等に関する法律 (3) 食糧法 (4) 農業保険法				11～14	
使用テキスト	配付資料						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験、課題提出、学習態度						

科目名	農業関連産業論	区分	共通専門科目	単位	1	総時間	15
学科	全経営学科共通			学年	1		
到達目標	農業は農産物の生産行為単体で成り立つものではなく、流通加工・販売や農業機械・農薬・肥料・農業資材供給等の幅広い経済活動で成り立っている。それらに関する知識と、農業支援組織として総合的に関与する農業協同組合等について学習する。						
指導内容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 農業関連産業	(1) 農業関連企業の産業構造 (農業機械・種苗・肥料・農薬会社等)				1～3	
	2 農業支援組織	(1) 農業支援組織の種類、特色 (農協、農業共済組合の役割)				4～7	
使用テキスト	無						
参考図書	配付資料						
評価の要素	レポート、学習態度等						

科目名	簿記概論	区分	共通専門科目	単位	3	総時間	45
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	複式簿記の原理、記帳法、決算手続き等を理解し、農業経営実践のために必要な会計処理の技術を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 簿記の基本	(1) 簿記の意義としくみ (2) 仕訳と転記 (3) 仕訳帳と元帳 (4) 決算				1~3 4 5	
	2 各種取引の記帳	(1) 現金と預金 (2) 繰越商品・仕入・売上 (3) 売掛金と買掛金 (4) その他の債権と債務 (5) 受取手形と支払手形 (6) 有価証券 (7) 固定資産				6 7~8 9 10~11 12~13 14 15~16	
	3 決算整理仕訳	(1) 貸倒損失と貸倒引当金 (2) 資本金と引出金 (3) 収益と費用 (4) 伝票 (5) 財務諸表				17 18 19 20 21~22	
使用テキスト	『検定簿記講座3級商業簿記』中央経済社、『日商簿記3級に"と"おる"テキスト』ネットスクール出版						
参考図書	配付資料						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	農業情報処理基礎	区分	共通専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	農業経営に必要な情報処理技術の基礎を身に付ける。						
指 導 内 容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	【講義】 1 コンピュータ	(1) ハードウェア				1	
	2 情報通信ネットワーク	(1) ネットワーク (2) インターネット (3) メール				2~3	
	3 情報モラルと情報セキュリティー	(1) 情報モラル (2) 情報セキュリティー				4~5	
	【演習】 4 ウィンドウズの操作	(1) ウィンドウズの基本操作				6	
	5 インターネット	(1) ブラウザソフトの基本操作				7	
6 文書作成及びデータ処理演習	(1) マイクロソフトワードの操作 (2) マイクロソフトエクセルの操作 (3) マイクロソフトパワーポイントの操作				8~14		
使用テキスト	『例題35+演習問題65でしっかり学ぶWord/Excel/PowerPoint標準テキスト』技術評論社						
参考図書	配付資料						
評価の要素	筆記試験、受講態度、レポート等						

科目名	農業情報処理応用	区分	共通専門科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	2		
到達目標	農業経営に必要な情報処理技術の応用を身に付ける。						
指 導 内 容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)					回
	1 インターネット販売の方法	(1) インターネット販売の利点と注意点、手順					1
	2 ネットショップ開店の下準備	(1) 決裁・発送方法、ドメイン取得等の準備 (2) サイト作りのためのストーリー作り					2
	3 ロールプレイ	(1) ロールプレイシートの作成 (2) セールストックロールプレイ					3
	4 商品ページ作成方法	(1) 商品ページラフ作成					4
	5 トップページ作成方法	(1) トップページラフ作成					5
	6 効果的な文章作成と写真撮影方法	(1) キャッチコピー・文章作成のコツ (2) 商品の写真撮影方法					6
	7 商品の販売と適切な顧客対応、総括	(1) 日々のサイト管理方法と顧客対応 (2) まとめ					7
使用テキスト	『ネットショップ検定 公式テキスト ネットショップ実務士レベル1対応』ネットショップ能力認定機構						
参考図書	配付資料						
評価の要素	筆記試験、学習態度、課題提出						

科目名	農業情勢 I	区分	共通専門科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	2		
到達目標	国内外の農業情勢の概要について理解する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)					回
	1 食糧需給と食生活	(1) 日本人の食生活の変化 (2) 日本の食料需給 (3) 世界の食料需給					1~2
	2 農業・農村の動向と農家経済	(1) 農業の動向 (2) 農村の動向					3~4
	3 わが国の農業政策の展開と農産物貿易交渉の動向	(1) わが国の農業政策の展開 (2) 農産物貿易交渉の動向 (3) わが国の農業政策の現状 (4) 農業経営における新しい動き					5~6
	5 農業協同組合の機能と役割	(1) 農業協同組合の機能と自己改革 (2) 農協グループがめざす基本政策の確立					7
使用テキスト	『日本農業とJA』JA全中、配付資料						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験(短答式、論述式)、課題提出、学習態度						

科目名	農業情勢Ⅱ	区分	共通専門科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	2		
到達目標	農業情勢(本県の状況、主要施策・制度等)を理解する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 ふくしま復興のあゆみ		(1) 東日本大震災の被害と復興状況など			1	
	2 ふくしま農林水産業新生プラン		(1) プランの内容、主要施策 (2) 農業・農村の動向など			2	
	3 県産農畜産物の輸出		(1) 県産農畜産物の輸出の現状 (2) 県産農畜産物輸出拡大に向けた取り組み			3	
	4 新たな米政策		(1) 経営所得安定対策 (2) 米の需給状況など			4	
	5 鳥獣被害対策		(1) 鳥獣被害の現状 (2) 鳥獣被害防止対策			5	
	6 再生可能エネルギー		(1) 再生可能エネルギーの導入促進策 (2) 県内の動向及び導入事例			6	
	7 日本型直接支払制度		(1) 多面的機能支払 (2) 中山間地域等直接支払			7	
使用テキスト	配付資料						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験、課題提出、学習態度						

科目名	土壌肥料概論	区分	共通専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	土壌・肥料の基礎知識を学び、農業経営に必要な「土づくりと作物生産」との関係の基礎を理解する。また、実際の農業に役立つ土壌改良や施肥法について学ぶ。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 土壌の性質		(1) 土壌の化学性 (2) 土壌の物理性 (3) 土壌の生物性			1~2 3 4	
	2 植物の必須元素と有害元素		(1) 多量必須元素 (2) 微量必須元素と有害元素			5 6	
	3 作物の生育診断		(1) 要素の欠乏症と過剰症			7	
	4 耕地土壌の特徴		(1) 水田土壌 (2) 畑土壌 (3) ハウス土壌			8 9 10	
	5 土壌の診断と施肥管理		(1) 土壌の診断と改良 (2) 化学肥料と有機質肥料 (3) 施肥管理法 (4) 肥料計算			11 12 13 14	
使用テキスト	『土づくりと作物生産 収量・品質向上のための土づくりの基礎』日本土壌協会						
参考図書	配付資料						
評価の要素	学習態度、筆記試験						

科目名	農業機械	区分	共通専門科目	単位	2	総時間	30
学科	全経営学科共通			学年	1		
到達目標	農業機械の種類、構造と機能、農作業安全など農業経営に必要な基礎知識を習得する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 農業と農業機械		(1) 農業機械の基礎 (2) 農業機械の役割			1~2	
	2 農業機械の構造と役割		(1) 原動機 (2) トラクタの構造と利用 (3) 農業機械と安全 (4) 農業機械の整備			3~12	
	3 農業生産と農業機械の利用		(1) 農業機械の効率的利用			13~14	
使用テキスト		『農業機械』実教出版					
参考図書		『農業機械の構造と利用』農山漁村文化協会					
評価の要素		筆記試験、学習態度等					

科目名	農業機械基礎実習	区分	共通専門科目	単位	1	総時間	45
学科	全経営学科共通			学年	1		
到達目標	トラクタ、管理機、刈払機、及び作物別の農業機械の基本操作、点検整備、安全対策など農業経営に必要な技能を習得する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 農業機械の基本操作1		(1) 刈払機 (2) ロータリ耕			1~4 5~6	
	2 アーク溶接		(1) アーク溶接の理論 (2) アーク溶接作業			7~10 11~12	
	3 農機整備の基礎		(1) 乗用トラクタ (2) 歩行型トラクタ、刈払機			13~14 15~16	
	4 農業機械の基本操作2		(1) 乗用トラクタ			17~22	
使用テキスト		『農業機械』実教出版					
参考図書		『耕うん機と刈払機の構造と安全な使い方』日本農業機械化協会					
評価の要素		課題提出、学習態度					

科目名	農業機械操作実習 I	区分	共通専門科目	単位	1	総時間	45
学 科	全経営学科共通			学 年	2		
到達目標	トラクタの基本操作と運転技術を身につけ、大型特殊免許(農耕車に限る)の取得を目指す。なお、本実習が始まるまでに、普通自動車免許を取得しておくことが望ましい。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 トラクタの基本操作		(1)トラクタの運転操作 (2)前後進、外周走行、車庫入れ			1~4	
	2 トラクタの路上走行		(1)道路交通法に従った路上走行 (2)運転コースの解説 (3)運転技能の評価			5~18	
	3 大型特殊免許(農耕車に限る)受験		(1)運転免許センターでの技能試験			19~22	
使用テキスト	無						
参考図書	『トラクタの構造と安全な使い方』日本農業機械化協会、配付資料						
評価の要素	課題提出(技能試験の結果)、学習態度						

科目名	マーケティング論	区分	共通専門科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	2		
到達目標	現代市民社会における経営としての農産物マーケティングの重要性の認識と実践の基礎を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 経営、マーケティング、農産物マーケティングの内容と体系		(1)経営・マーケティングコンセプトの変遷 (2)農産物マーケティングの内容と体系 (3)経営コンセプト、マーケティングコンセプト、生活者コンセプト			1 2	
	2 現代農産物マーケティングの内容と体系		(1)マーケティングの4要素と体系的マネジメント (2)生活者の諸要求と経営の対応 (3)商品開発とマーケティングマネジメント			3 4~5	
	3 現代マーケティングの諸問題		(1)地域と農産物マーケティング (2)その他			6 7	
使用テキスト	『クチコミュニティ・マーケティング』日本実業社、『これだけは知っておきたい「マーケティング」の基本と常識』フォレスト出版						
参考図書	配付資料(経営者向けの月刊誌を中心とした資料を随時用意する)						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	マーケティング演習	区分	共通専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	全経営学科共通			学 年	2		
到達目標	現代市民社会における経営としての農産物マーケティングに関する意思決定を諸事例をとおして判断する能力を養う。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 経営、マーケティング・農産物マーケティングの内容と体系および事例		(1) 福島県における農産物商品の「地域特性」 (2) 福島県農産物マーケティングのあり方			1～5	
	2 商品開発のマーケティング・マネジメント		(1) 商品別商品開発事例の研究			6～10	
	3 地域とマーケティング・マネジメント		(1) 地域の開発と農産物マーケティング (2) 福島県「GAP」推進活動 (3) その他			11～14	
使用テキスト	『「コト消費」の嘘』角川書店、『物を売るバカ』角川書店、『「圧倒的信頼」が手に入る営業PDCA』三笠書房						
参考図書	配付資料(経営者向けの月刊誌を中心とした資料を随時用意する)						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	食品製造	区分	共通専門科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	食品を加工する意義について理解するとともに、食品劣化防止や食品の加工法、さらに食品に含まれる栄養素について学ぶ。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 授業目的と食品の成分		(1) 授業の目的 (2) 食品の成分			1	
	2 食品を加工する意義		(1) 食品を加工する意義			2	
	3 食品保存の原理と方法		(1) 食品の変質を起こす要因とその防止方法			3	
	4 食品加工の原理と方法		(1) 食品加工法の分類及び方法			4	
	5 植物性食品の加工法		(1) 穀類、豆類、野菜類、果実類他			5	
	6 動物性食品の加工法		(1) 肉類、卵類、乳類、食用油脂			6	
	7 酒類、調味料、調理加工食品		(1) 酒、調味料、みそ、しょう油、レトルト食品			7	
使用テキスト	配付資料						
参考図書	配付資料						
評価の要素	筆記試験、課題提出、学習態度						

科目名	スマート農業実践	区分	共通専門科目	単位	1	総時間	15
学科	全経営学科共通			学年	1		
到達目標	担い手不足が課題となっている現代の農業の現場において、今後導入が必須となるスマート農業についての基礎的な知識を習得する。また、実際に体験することで、機材の使用方法等への理解を深める。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1	スマート農業の概要(講義)	(1) スマート農業の基礎について			1	
	2	スマート農業の実践(演習)	(1) スマート農業機器の実演・実習(校内)			2~5	
	3	スマート農業事例研究(演習)	(1) スマート農業導入事例調査(校外)			6~7	
使用テキスト	配布資料						
参考図書	無						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	GAP概論	区分	共通専門科目	単位	1	総時間	15
学科	全経営学科共通			学年	1		
到達目標	GAPの理念及び適切な農場管理のあり方、実践事例の学習を通じて、食品安全や労働安全、環境に配慮した農業、人権や福祉などの管理点の内容を理解する。次に、それらをPDCAサイクルにより継続的に改善していく農業経営管理の必要性を理解する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1	GAPの概要(講義)	(1) GAPの基本理念 (2) 県内におけるGAPの取り組み			1	
	2	GAPの取組(講義・演習)	(1) 農業経営におけるリスク (2) 安全な農畜産物の生産 (3) 作成が必要な記録等			2~5	
	3	GAP事例研究	(1) GAP認証取得農場における農場管理の実践事例			6~7	
使用テキスト	配布資料						
参考図書	無						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	卒業論文	区分	共通専門科目	単位	2	総時間	30
学科	全経営学科共通			学年	1		
到達目標	卒業論文の計画を立て、科内設計検討会で発表する。また、2年生の卒業論文計画発表会、中間検討会、卒業論文発表会への出席・聴講、質疑応答への参加を通し、2年次に自らが取り組む卒業論文についての理解を深める。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 課題設定及び調査計画の策定		(1) 卒業論文計画の策定			1～5	
	2 科内検討の実施		(2) 卒業論文計画検討会(科内)での発表及び計画内容の検討			6～7	
	3 2年生の卒論関連発表会等への出席		(1) 卒業論文計画発表会(科内)の聴講及び質疑応答への参加 (2) 卒業論文中間検討会(科内)の聴講及び質疑応答への参加 (3) 卒業論文発表会(科内・全体)の聴講及び質疑応答への参加			8～14	
使用テキスト	無						
参考図書	配付資料						
評価の要素	卒論の設計内容、学習態度						

科目名	卒業論文	区分	共通専門科目	単位	8	総時間	120
学科	全経営学科共通			学年	2		
到達目標	専門科目、経営実習等で学んだ専門知識、技術の集大成として卒業論文の執筆に取り組むことにより、自己解決能力を醸成するとともに、発表会等を通して自己表現能力を養う。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 調査研究の進め方		(1) 作業計画、調査計画の樹立 (2) 卒論計画発表会(科内)での発表			1～6	
	2 調査法・観察法		(1) 課題解決のための調査方法・観察方法 (2) 中間検討会(科内)での発表			7～18	
	3 データ、資料収集		(1) データの収集、分析 (2) 資料の収集、読解			19～34	
	4 結果の分析・評価・考察		(1) 結果の分析、とりまとめ (2) 卒業論文発表会(科内・全体)での発表			35～60	
使用テキスト	無						
参考図書	配付資料						
評価の要素	卒論の内容、学習態度						

科目名	(自由選択) 簿記検定講座	区分	共通専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	日商簿記検定試験(3級)合格を目指す。						
指 導 内 容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 諸取引の仕訳	(1) 現金、現金過不足、商品売買、手形 (2) 貸倒と貸倒引当金、前受金、前払金、借受金、仮払金 (3) 利息、給料、立替金と預り金、商品券 (4) 固定資産、有価証券、修正仕訳、伝票会計				1 2 3 4	
	2 試算表	(1) 試算表の作成				5~7	
	3 期末整理事項	(1) 減価償却、見越しと繰延				8	
	4 精算表	(1) 精算表の作成				9~10	
	5 財務諸表	(1) 帳簿の締切、貸借対照表、損益計算書				11	
	6 補助簿	(1) 商品有高帳、売掛金元帳、手形記入帳 (2) 小口現金出納帳、当座預金出納帳				12 13	
	7 総合演習	(1) 模擬問題演習				14	
使用テキスト	『検定簿記講義3級商業簿記』中央経済社						
参考図書	無						
評価の要素	日商簿記検定試験(3級)結果、学習態度						

科目名	(自由選択) 毒物・劇物取扱解説	区分	共通専門科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	農薬の一部が含まれる毒物・劇物の取扱を学び、毒物劇物取扱者資格の取得を目指す。						
指 導 内 容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 毒物及び劇物の性質	(1) 毒物劇物の化学的な性質について				1~4	
	2 一般化学	(1) 毒物劇物取扱者資格試験に頻出する一般化学				5~7	
使用テキスト	『毒物及び劇物取締法解説』業務公報社、『わかりやすい毒物劇物取扱者試験』弘文社						
参考図書	無						
評価の要素	資格試験合否、学習態度						

科目名	(自由選択) 毒物劇物取扱者資格講座	区分	共通専門科目	単位	1	総時間	15
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	農薬の一部が含まれる毒物・劇物の取扱を学び、毒物劇物取扱者資格の取得を目指す。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		小項目 (教授内容)			回	
	1 毒物及び劇物		(1) 毒劇物・毒劇物取扱者とは (2) 中毒事故の事例			1	
	2 毒物及び劇物取締法解説		(1) 法律の目的 (2) 営業者、登録・届出 (3) 毒劇物の表示・譲渡・交付 (4) 事故の際の措置			2～3	
	3 受験対策		(1) 模擬試験の実施			4～7	
使用テキスト	『毒物及び劇物取締法解説』薬務公報社、『わかりやすい毒物劇物取扱者試験』弘文社						
参考図書	無						
評価の要素	資格試験合否、学習態度						

科目名	(自由選択) 農業機械操作実習Ⅱ	区分	共通専門科目	単位	1	総時間	45
学 科	全経営学科共通			学 年	2		
到達目標	トラクタとトレーラの操作・運転技術を身につけ、けん引免許(農耕車に限る)の取得を目指す。なお、本実習が始まるまでに、大型特殊免許(農耕車以上)を取得すること。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		小項目 (教授内容)			回	
	1 けん引の基本操作		(1) けん引の操作 (2) 前後進、外周走行、車庫入れ、S字			1～4	
	2 けん引の路上走行		(1) 道路交通法に従った路上走行 (2) 運転コースの解説 (3) 運転技能の評価			5～18	
	3 けん引免許(農耕車に限る)受験		(1) 運転免許センターでの技能試験			19～22	
使用テキスト	無						
参考図書	配付資料						
評価の要素	課題提出(技能試験の結果)、学習態度						

3 専門科目 (水田・野菜・果樹・花き経営学科共通)

科目名	農業概論	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	水田・野菜・果樹・花き経営学科共通			学 年	1		
到達目標	農作物の生育と環境に関する基礎知識や農業技術等の発達について総合的に学び、農業全般についての大局的な知識を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 人間生活と作物		(1) 作物の起源、種類と特徴			1	
	2 作物栽培と環境		(1) 作物の生育と環境のかかわり			2	
	3 気象環境と作物		(1) 気象環境が作物の生育に及ぼす影響			3~4	
	4 土壌環境と作物		(1) 土壌環境が作物の生育に及ぼす影響			5~7	
	5 生物環境と作物		(1) 生物環境が作物の生育に及ぼす影響			8~10	
	6 施設栽培の環境管理		(1) 施設栽培における環境管理と作物の生育			11~13	
	7 農業技術総論		(1) 農業技術の発達			14	
使用テキスト	『農学基礎セミナー作物の生育と環境』農山漁村文化協会						
参考図書	『農学基礎セミナー新版作物栽培の基礎』((社)農山漁村文化協会)、『新版図集植物バイオテクノロジーの基礎知識』((社)農山漁村文化協会)、配布資料						
評価の要素	筆記試験、受講態度						

科目名	作物保護	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	水田・野菜・果樹・花き経営学科共通			学 年	1		
到達目標	作物病害虫に関する基礎知識を習得し、防除法の基本を理解する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 作物の病害		(1) 植物病理学とは、病原と病気			1	
			(2) 病気の感染と流行			2	
			(3) 病気の種類と性質			3	
			(4) 病気の同定と診断			4	
			(5) 病気の管理			5	
			(6) 殺菌剤とその使用			6	
	2 作物の害虫		(1) 昆虫の形態と生理			7~8	
		(2) 昆虫の分類			9		
		(3) 昆虫の生態			10		
		(4) 主要害虫の生態			11~12		
3 農薬		(1) 農薬とは			13		
		(2) 農薬の種類と剤型及び使用法			14		
使用テキスト	『植物病理学の基礎』、『応用昆虫学の基礎』農山漁村文化協会、配付資料						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	植物生理	区分	専門科目	単位	1	総時間	15
学科	水田・野菜・果樹・花き経営学科共通			学年	1		
到達目標	植物の生命活動について科学的見地から理解を深め、農作物の生育と関連付けることで栽培管理能力を養成する。						
指導内容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 植物体における物質輸送	(1) 植物体内での水と物質の流れ				1	
	2 植物体の必須要素	(1) 植物体の必須元素 (2) 欠乏症				2	
	3 細胞の成長	(1) 細胞の分裂と伸長				3	
	4 植物ホルモン	(1) 植物ホルモンの種類と働き				4	
	5 光応答	(1) 光受容体 (2) 花芽形成と光周性				5	
	6 植物の成長	(1) 栄養成長と生殖成長、種子のでき方				6	
	7 植物の環境適応	(1) 環境適応の仕組み				7	
使用テキスト	『基礎生物学テキストシリーズ 植物生理学』化学同人社、配付資料						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	環境保全と農業	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学科	水田・野菜・果樹・花き経営学科共通			学年	2		
到達目標	農業と環境とのかかわりや食の安全・安心に向けた取り組みなどについて理解を深め、環境と共生する農業のあり方や環境保全型農業の主要技術について学習する。						
指導内容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 生物多様性の保全	(1) 熱帯雨林の減少とその要因 (2) 環境変化と生物多様性保全				1	2
	2 地域温暖化の原因と対策	(1) 地球温暖化のメカニズム (2) 地球温暖化が農業に及ぼす影響				3	4
	3 プラスチックごみ問題	(1) プラスチック再資源化の現状 (2) マクロプラスチック、その原因と対策				5	6
	4 地域環境と農業	(1) 農地の多面的機能と水環境保全 (2) 鳥獣害の原因と対策				7	8
	5 環境保全型農業技術	(1) 化学肥料・化学合成農薬低減技術 (2) 持続性の高い農業生産方式				9	10
	6 食の安全・安心につながる認証制度	(1) 有機栽培と特別栽培 (2) GAPの種類と特徴				11	12
	7 放射能汚染	(1) 放射能汚染の過去と今 (2) トリチウム水等汚染物質の処分				13	14
使用テキスト	配付資料						
参考図書	無						
評価の要素	レポート、学習態度						

科目名	有機農業	区分	専門科目	単位	1	総時間	15
学科	水田・野菜・果樹・花き経営学科共通			学年	2		
到達目標	有機農業の理解を深め、それぞれの技術をとおして循環型農業の必要性を考える。						
指導内容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)					回
	1 有機農業と有機農産物認証制度	(1) 有機農業の歴史・基本理念、有機JAS制度					1
	2 有機農業における土と肥料	(1) 土壌の特性、堆肥、ぼかし肥料、土づくり					2
	3 有機栽培技術(水稲)	(1) 水稲の有機栽培技術(育苗、除草法等)					3
	4 有機栽培技術(野菜・畑作)	(1) 野菜・畑作の有機栽培技術(主な作目ごとの育苗、定植、管理法)					4
	5 有機農産物の流通・販売	(1) 有機農産物の需要と流通・販売実態、販売の課題と対策					5
	6 有機栽培の実際	(1) 有機栽培圃場の運営、作物の生育・管理について					6~7
使用テキスト	『有機農業の技術と考え方』コモンズ、配付資料						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験、学習態度、課題提出						

科目名	農産物流通	区分	専門科目	単位	1	総時間	15
学科	水田・野菜・果樹・花き経営学科共通			学年	2		
到達目標	農産物・食品の流通システムの実態的知識を習得し、その諸課題に対する改善策を講じる能力を身につける。						
指導内容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)					回
	1 農産物流通の基礎	(1) 農産物流通の基本知識					1
		(2) 農産物の卸売市場 (3) 農産物の市場外流通(直売所・直接取引)					2 3
2 農産物別流通システムの実態と課題	(1) 米の流通 (2) 青果物の流通1(野菜) (3) 青果物の流通2(果物) (4) 農業の6次産業化					4 5 6 7	
使用テキスト	配付資料						
参考図書	『新版 食料・農産物流通論』(筑波書房、2012)藤島廣二・安部新一・宮部和幸・岩崎邦彦著						
評価の要素	筆記試験、学習態度、課題提出						

科目名	農学実験	区分	専門科目	単位	1	総時間	30
学 科	水田・野菜・果樹・花き経営学科共通			学 年	1		
到達目標	植物病害虫の診断・同定、土壌診断・分析方法を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 植物病理・昆虫の同定と診断		(1) 病害虫の診断・同定 (2) 農薬の生物検定			1~4 5~8	
	2 土壌肥料の分析・診断		(1) 土壌断面調査 (2) pH、EC等の分析 (3) 中和石灰量 (4) 窒素、リン酸、カリの簡易分析			9~14	
使用テキスト	配付資料						
参考図書	『図解 やさしい農学実験』						
評価の要素	学習態度、課題提出						

4 専門科目 (水田経営学科)

科目名	先進農家等留学研修	区分	専門科目	単位	5	総時間	225
学科	全経営学科共通			学年	1		
到達目標	先進的な農業を実践している農業者・農業法人の経営や技術、生活を実際に体験することにより、農業に対する取組や考え方を直接肌で感じ取り、豊かな農業観や職業観を学ぶ。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 実施計画 2 研修		(1) 実施計画の作成 (1) 実施計画に基づく研修の実施			2週間	
使用テキスト	無						
参考図書	無						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	経営研修	区分	専門科目	単位	2	総時間	90
学科	全経営学科共通			学年	1~2		
到達目標	県内外の先進的な取組や流通・販売、さらには関係機関や施設等を見学することにより農業に関する幅広い知識を習得する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 県内研修 2 県外研修 【選択1】 3 企画研修 【選択2】 4 海外農業研修		(1) 各学科で企画し実施 (1) 各学科で企画し実施 (1) 学生が企画立案し実施 (1) 海外の農業経営等を調査			3日 2日 3日 7日	
使用テキスト	無						
参考図書	無						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	水田経営基礎	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学科	水田経営学科			学年	1		
到達目標	水稲、主要畑作物の形態、生態、生育、栽培管理などについて、基礎的な知識を習得する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1	水稲	(1) 水稲の形態 (2) 水稲の生態、生育 (3) 水稲の栽培管理の基礎 (4) 米の品質・利用、気象災害			1～6	
	2	小麦	(1) 小麦の形態、生態、生育 (2) 小麦の栽培管理の基礎			7～8	
	3	豆類	(1) 大豆の形態、生態、生育 (2) 大豆の栽培管理の基礎 (3) 小豆、落花生の形態、生態、生育、栽培管理の基礎			9～10	
	4	イモ類	(1) バレイシヨの形態、生態、生育、栽培管理の基礎 (2) カンシヨの形態、生態、生育、栽培管理の基礎			11～12	
	5	その他の畑作物	(1) ソバの形態、生態、生育、栽培管理の基礎 (2) コンニャク、ハトムギの形態、生態、生育、栽培管理の基礎 (3) エゴマ、ナタネの形態、生態、生育、栽培管理の基礎			13～14	
使用テキスト	『新版 作物栽培の基礎』農山漁村文化協会、配付資料						
参考図書	『福島県稲作・畑作指導指針』						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	水田経営応用	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学科	水田経営学科			学年	1		
到達目標	水稲、主要畑作物の分類、起源、生育診断技術、栽培管理技術、流通、加工等について学び、経営基礎からさらに深化した知識を習得する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1	ダイズ	(1) 分類、起源、生理、流通 (2) 品種、品質、加工適性、栽培管理			1～2	
	2	ソバ	(1) 分類、起源、生理、流通 (2) 用途、栽培管理、加工			3～4	
	3	イモ類(バレイシヨ・カンシヨ)	(1) 分類、起源、形態、流通 (2) 品種、栽培管理、加工			5～6	
	4	コムギ	(1) 分類、起源、生理、流通 (2) 品種、小麦粉の種類と品質、栽培管理、加工、流通			7～8	
	5	水稲	(1) 種子の構造と発芽、苗質、育苗技術 (2) 施肥設計、施肥・移植・水管理技術、分けつの分化と発達 (3) 雑草、病害虫の防除 (4) 生育診断技術、出穂期前後の管理 (5) 収穫・乾燥・調製技術、流通			9～12	
	6	GAP	(1) GAPの概要			13～14	
使用テキスト	『作物学の基礎 I 食用作物』農山漁村文化協会、配布資料						
参考図書	『福島県稲作・畑作指導指針』、『コンニャク全書』、『日本の特農産物』						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	水田経営実践	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学科	水田経営学科			学年	2		
到達目標	稲作、畑作経営の現状や課題、環境負荷軽減技術、低コスト化技術、放射性物質吸収抑制技術等について学び、また、ゼミナール形式での学習を通し、実践的な経営能力を習得する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 稲作		(1) 穂・稈の構造と役割、出穂・開花・受精・登熟 (2) 米の品質と食味 (3) 米の多目的利用、気象災害、水田土壌の特徴 (4) 稲作の現状と課題、直播栽培等低コスト技術 (5) 新しい稲作技術(直播を除く) (6) 環境負荷軽減技術、放射性物質の吸収抑制技術、FOEAS (7) 稲作関連の法令・政策、福島県の施策等			1~7	
	2 畑作		(1) コンニャクの分類、起源、生理、流通 (2) 作付け様式・作付け方式、連作障害と対策 田畑輪換、FOEAS (3) 単一経営と複合経営 (4) 放射性物質の吸収抑制技術			8~10	
	3 共通		(1) 卒論関連文献の読解(ゼミ形式)			11	
	4 GAPの実践		(1) 帳票の作成 (2) 模擬審査			12~13 14	
使用テキスト	『作物学の基礎Ⅰ 食用作物』農山漁村文化協会、配布資料						
参考図書	『福島県稲作・畑作指導指針』						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	食品製造演習	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学科	水田経営学科			学年	1		
到達目標	本校で生産される農産物を加工し、農産加工に関する基礎技術を習得するとともに、農産加工による付加価値化の意義を理解する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 イモ加工		(1) 菓子加工			1~2	
	2 コンニャク加工		(1) コンニャクイモから作るコンニャク加工			3~4	
	3 大豆加工		(1) 豆腐加工			5~6	
	4 米加工		(1) 麴加工			7~8	
	5 大豆加工		(1) みそ加工			9~10	
	6 小麦加工		(1) 小麦の酵母発酵(中華饅)			11~12	
	7 そば加工		(1) 手打ちそば			13~14	
使用テキスト	無						
参考図書	配付資料						
評価の要素	課題提出、演習態度、出席						

5 専門科目（野菜経営学科）

科目名	先進農家等留学研修	区分	専門科目	単位	5	総時間	225
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	先進的な農業を実践している農業者・農業法人の経営や技術、生活を実際に体験することにより、農業に対する取組や考え方を直接肌で感じ取り、豊かな農業観や職業観を学ぶ。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 実施計画		(1) 実施計画の作成			2週間	
	2 研修		(1) 実施計画に基づく研修の実施				
使用テキスト	無						
参考図書	無						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	経営研修	区分	専門科目	単位	2	総時間	90
学 科	全経営学科共通			学 年	1～2		
到達目標	県内外の先進的な取組や流通・販売、さらには関係機関や施設等を見学することにより農業に関する幅広い知識を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 県内研修		(1) 各学科で企画し実施			3日	
	2 県外研修		(1) 各学科で企画し実施			2日	
	【選択1】 3 企画研修		(1) 学生が企画立案し実施			3日	
	【選択2】 4 海外農業研修		(1) 海外の農業経営等を調査			7日	
使用テキスト	無						
参考図書	無						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	野菜生産概論	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	野菜経営学科			学 年	1		
到達目標	野菜栽培に必要な生理生態等の基礎知識を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1	野菜の生育	(1) 種子と発芽、休眠と休眠打破 (2) 根の発達と肥大、茎葉の生育と結球 (3) 花芽の分化、発達と果実の肥大			1	2
	2	野菜の品質	(1) 野菜の品質とその管理、出荷規格			3	4
	3	野菜の栽培と環境管理	(1) 野菜の健全な生育と環境 (2) 土壌管理と施肥 (3) 被覆資材の利用 (4) 施設栽培と環境管理 (5) 養液栽培 (6) 有害生物の管理 (7) 育苗(果菜類、葉茎菜類) (8) セル成形苗の育成			5	6
	4	野菜の生産	(1) 福島県における野菜栽培状況			7	8
使用テキスト	『新版 野菜栽培の基礎』農山漁村文化協会、配布資料						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験、課題提出、学習態度						

科目名	野菜栽培各論	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	野菜経営学科			学 年	1		
到達目標	本校で栽培している品目のうち主なものについて、その生理生態、栽培管理技術(肥培管理、病害虫防除を含む。)等の知識を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1	葉茎菜類(フロコリー、キャベツ、レタス ハクサイ、ネギ 他)	(1) 野菜としての特徴、生育、栽培管理			1~2	
	2	根菜類(ダイコン、ニンジン、ゴボウ 他)	(1) 野菜としての特徴、生育、栽培管理			3~4	
	3	いも類(ハレイショ、サトイモ 他)	(1) 野菜としての特徴、生育、栽培管理			5~6	
	4	ナス科果菜類(トマト、ピーマン 他)	(1) 野菜としての特徴、生育、栽培管理			7~8	
	5	ウリ科果菜類(キュウリ、カボチャ 他)	(1) 野菜としての特徴、生育、栽培管理			9~10	
	6	その他(マメ科野菜、イネ科野菜 等)	(1) 野菜としての特徴、生育、栽培管理			11~12	
	7	GAPの実践(I)	(1) 帳票の作成			13~14	
使用テキスト	『新版 野菜栽培の基礎』農山漁村文化協会、配布資料						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験、課題提出、学習態度						

科目名	野菜経営各論	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学科	野菜経営学科			学年	2		
到達目標	福島県における野菜の栽培状況やGAPの内容について学び、野菜経営を行う上で必要な知識と判断力を身につける。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 福島県における野菜の栽培状況		(1) 福島県の主要野菜について (2) キュウリの生産と流通 (3) トマトの生産と流通 (4) アスパラガスの生産と流通			1 2 3 4	
	2 GAPの実践(Ⅱ)		(1) 帳票の作成 (2) リスク評価			5 6	
	3 野菜の経営分析		(1) 栽培計画の作成 (2) 施肥設計、農薬倍率、収量等の計算 (3) 経済性評価			7~9 10~12 13~14	
使用テキスト	配付資料						
参考図書	無						
評価の要素	課題提出、学習態度						

科目名	食品製造演習	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学科	野菜・果樹経営学科共通			学年	1		
到達目標	本校及び県内で生産される園芸品目を主とした加工を行い、農産加工に関する基礎技術を習得するとともに、加工による付加価値化の意義を理解する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 農産加工の基礎		(1) 食品加工の意義について (2) 食品表示制度について			1~2 3~4	
	2 野菜の加工		(1) トマトの加工 (JAS規格等) (2) 漬物の加工 (殺菌・保存性等) (3) いも類の加工 (乾燥、水分活性等)			5~6 7~8 9~10	
	3 果実の加工		(1) りんごの加工 (酵素褐変原理等) (2) ももの加工 (ゼリー化等)			11~12 13~14	
使用テキスト	無						
参考図書	配付資料						
評価の要素	課題提出、学習態度、出席						

6 専門科目（果樹経営学科）

科目名	先進農家等留学研修	区分	専門科目	単位	5	総時間	225
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	先進的な農業を実践している農業者・農業法人の経営や技術、生活を実際に体験することにより、農業に対する取組や考え方を直接肌で感じ取り、豊かな農業観や職業観を学ぶ。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 実施計画 2 研修		(1) 実施計画の作成 (1) 実施計画に基づく研修の実施			2週間	
使用テキスト	無						
参考図書	無						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	経営研修	区分	専門科目	単位	2	総時間	90
学 科	全経営学科共通			学 年	1~2		
到達目標	県内外の先進的な取組や流通・販売、さらには関係機関や施設等を見学することにより農業に関する幅広い知識を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 県内研修		(1) 各学科で企画し実施			3日	
	2 県外研修		(1) 各学科で企画し実施			2日	
	【選択1】 3 企画研修		(1) 学生が企画立案し実施			3日	
【選択2】 4 海外農業研修		(1) 海外の農業経営等を調査			7日		
使用テキスト	無						
参考図書	無						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	果樹生産概論	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	果樹経営学科			学 年	1		
到達目標	落葉果樹の成長と果実生産の基礎知識を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 生産概況	(1) 国内、県内の果樹生産と消費状況				1	
	2 種類と特徴	(1) 果樹の種類と栽培適地				2	
	3 開園と植え付け	(1) 開園準備、栽培様式、植え付け方法				3	
	4 苗木の生産	(1) 実生・栄養繁殖、繁殖方法				4	
	5 各器官の成長とはたらき	(1) 開花結実の生理				5	
		(2) 果実の肥大と成熟・追熟				6	
		(3) 枝葉の生長と花芽分化				7	
		(4) 植物ホルモンのはたらき				8	
6 主な栽培管理	(1) 人工受粉と着果管理				9		
	(2) 収穫期の判定				10		
	(3) 整枝、せん定の基礎				11		
	(4) 土壌管理と施肥				12		
7 主な落葉果樹の品種	(1) 品種の特性				13		
8 気象災害	(1) 気象災害とその対策				14		
使用テキスト	『果樹園芸学の基礎』農山漁村文化協会、配付資料						
参考図書	『果樹園芸学』朝倉書店						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	果樹栽培各論	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	果樹経営学科			学 年	1		
到達目標	本県で栽培されている主な落葉果樹の特性と栽培管理技術を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 リンゴ	(1) 生育・生理・生態の特徴				1	
		(2) 栽培管理の方法				2	
	2 モモ	(1) 生育・生理・生態の特徴				3	
		(2) 栽培管理の方法				4	
	3 ナシ	(1) 生育・生理・生態の特徴				5	
		(2) 栽培管理の方法				6	
	4 その他の樹種	(1) 生育・生理・生態の特徴				7	
	(2) 栽培管理の方法				8		
5 病虫害防除	(1) 主な果樹の病虫害と防除対策				9		
	(2) 農業適正使用基準、防除の実際				10		
6 果樹の生理障害と対策	(1) モモ、ナシの生理障害と対策				11		
	(2) リンゴとその他の果樹の生理障害と対策				12		
7 GAP(農業生産工程管理)	(1) GAPの取組の意義と実践に向けて				13~14		
使用テキスト	『果樹園芸学の基礎』農山漁村文化協会、配付資料						
参考図書	『果樹園芸学』朝倉書店						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	果樹経営各論	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	果樹経営学科			学 年	2		
到達目標	果樹経営を行ううえで必要な実践的な知識を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1	果樹の省力化・軽労化技術	(1) リンゴ、ナシの省力化・軽労化技術			1	
	2	果実の販売・流通と利用	(2) ブドウの省力化・軽労化技術			2	
	3	果樹栽培におけるGAP	(1) 品質管理と果実の貯蔵法			3	
			(2) マーケティング			4	
(3) JAS法、トレーサビリティについて			5				
4	果樹における経営分析	(4) 果実の機能性と加工品			6		
		(1) GAP総論			7		
		(2) 実践事例の分析			8		
			(3) 本県における推進方策 (放射性物質対策)			9	
			(1) 優良経営事例の研究			10	
			(2) 栽培計画の作成			11~13	
			(3) 卒論に関する収支内訳書の作成			14	
使用テキスト	『果樹園芸学の基礎』農山漁村文化協会、配付資料						
参考図書	『新版 図集果樹栽培の基礎知識』						
評価の要素	筆記試験、学習態度、課題提出						

科目名	食品製造演習	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	野菜・果樹経営学科共通			学 年	1		
到達目標	本校及び県内で生産される園芸品目を主とした加工を行い、農産加工に関する基礎技術や付加価値化の技術を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1	農産加工の基礎	(1) 食品加工の意義について			1~2	
	2	野菜の加工	(2) 食品表示制度について			3~4	
			(1) トマトの加工 (JAS規格等)			5~6	
	3	果実の加工	(2) 漬物の加工 (殺菌・保存性等)			7~8	
(3) いも類の加工 (乾燥、水分活性等)			9~10				
			(1) りんごの加工 (酵素的褐変原理等)			11~12	
			(2) ももの加工 (ゼリー化等)			13~14	
使用テキスト	無						
参考図書	配付資料						
評価の要素	課題提出、学習態度、出席						

7 専門科目（花き経営学科）

科目名	先進農家等留学研修	区分	専門科目	単位	5	総時間	225
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	先進的な農業を実践している農業者・農業法人の経営や技術、生活を実際に体験することにより、農業に対する取組や考え方を直接肌で感じ取り、豊かな農業観や職業観を学ぶ。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 実施計画 2 研修		(1) 実施計画の作成 (1) 実施計画に基づく研修の実施			2週間	
使用テキスト	無						
参考図書	無						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	経営研修	区分	専門科目	単位	2	総時間	90
学 科	全経営学科共通			学 年	1～2		
到達目標	県内外の先進的な取組や流通・販売、さらには関係機関や施設等を見学することにより農業に関する幅広い知識を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 県内研修		(1) 各学科で企画し実施			3日	
	2 県外研修		(1) 各学科で企画し実施			2日	
	【選択1】 3 企画研修		(1) 学生が企画立案し実施			3日	
【選択2】 4 海外農業研修		(1) 海外の農業経営等を調査			7日		
使用テキスト	無						
参考図書	無						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	花き生産概論	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	花き経営学科			学 年	1		
到達目標	花き全般に関する生育や環境、開花、繁殖、利用などの基礎知識を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 花卉園芸の特色		(1) 園芸と花卉、花卉の分類			1	
	2 形態と成長		(1) 生活環と形態			2	
			(2) 発育生理			3	
	3 育種と繁殖		(3) 開花生理			4	
			(1) 育種			5	
		(2) 繁殖			6		
4 生産技術と環境管理		(1) 苗の育成			7		
		(2) 開花・生育調節			8		
		(3) 養水分管理			9		
		(4) 環境調節と省エネルギー技術			10		
		(5) 病害虫防除			11		
5 品質と利用		(1) 色と香り			12		
		(2) 品質保持			13		
		(3) 花卉園芸の新しい利用			14		
使用テキスト	『新版 草花栽培の基礎』農山漁村文化協会、配付資料						
参考図書	『花卉園芸学の基礎』農山漁村文化協会						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	花き栽培各論	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	花き経営学科			学 年	1		
到達目標	本県における主要花き品目の生理生態及び栽培管理技術の知識を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 キク		(1) 生育・生理生態の特徴、栽培管理			1～2	
	2 宿根カスミソウ		(1) 生育・生理生態の特徴、栽培管理			3～4	
	3 リンドウ		(1) 生育・生理生態の特徴、栽培管理			5～6	
	4 トルコギキョウ		(1) 生育・生理生態の特徴、栽培管理			7～8	
	5 シクラメン		(1) 生育・生理生態の特徴、栽培管理			9～10	
	6 枝物類		(1) 生育・生理生態の特徴、栽培管理			11	
	7 その他(球根類、低温開花性花き、 花壇用苗物等)		(1) 生育・生理生態の特徴、栽培管理			12～14	
使用テキスト	『新版 草花栽培の基礎』農山漁村文化協会、配付資料						
参考図書	『花卉園芸学の基礎』農山漁村文化協会						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	花き経営各論	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	花き経営学科			学 年	2		
到達目標	花き経営を行う上で必要な実践的な知識について理解する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 花きの動向とマーケティング		(1) 花きの動向、流通、消費、販売戦略、日持ち性 (2) 先進事例、過去の卒業論文等の研究、ゼミ			1~2 3~4	
2 作付け計画作成		(1) 施肥設計、農薬の散布量の計算、収量計算、栽植密度計算、ほ場図作成、経済性評価			5~14		
使用テキスト	『切り花の日持ち技術』農山漁村文化協会、配付資料						
参考図書	『新版 草花栽培の基礎』農山漁村文化協会						
評価の要素	課題提出、学習態度						

科目名	フラワー装飾演習	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	花き経営学科			学 年	1		
到達目標	現在のトレンド(流行)や消費者の志向を把握し、生産に反映させる。また、色彩や現在のライフスタイルに適応した花の飾り方を学び、感性を高める。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 花き生産・販売の傾向と対策 ミニアレンジ実習		(1)トレンド(流行)を知る (2)花き生産の方向性と店舗経営 (3)アレンジの基本			1~2	
	2 花き加工実習(アレンジ)		(1)花きの付加価値を高める技術(アレンジメントとラッピング)			3~4	
	3 冠婚葬祭と花き		(1)冠婚葬祭と花きのかかわり (2)効率的生産と販売			5~6	
	4 花き加工実習(ブーケ)		(1)冠婚葬祭における花きのトレンドと付加価値を高める技術			7~8	
	5 ショップシミュレーション		(1)目的別の花選び (2)接客演習			9~10	
	6 インテリアとしての花きと販売 インテリアアレンジ実習		(1)色彩やインテリアとしての花き			11~12	
7 花き加工実習(ドライフラワー)		(1)廃棄率削減とインテリア的使用を考えた加工(ドライフラワーのアレンジ)			13~14		
使用テキスト	『フラワーデザイナーのための花の教科書』日本フラワーデザイナー協会						
参考図書	無						
評価の要素	課題提出、学習態度、出席						

8 専門科目 (畜産経営学科)

科目名	畜産概論	区分	専門科目	単位	1	総時間	15
学科	畜産経営学科			学年	1		
到達目標	畜産に関する基礎知識を習得する。						
指導内容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 日本型畜産の概要	(1) 日本における畜産の沿革と特徴 (2) 牛・豚・鶏の主要品種の特徴 (3) 主要畜産物(乳、肉)の生産に関する要因				1~2	
	2 家畜の一生	(1) 家畜(肉用牛、乳用牛、肥育豚、繁殖豚、採卵鶏、ブロイラー)のライフサイクル				3~5	
	3 家畜の管理	(1) 家畜の日常管理(健康観察)とアニマルウェルフェア				6	
	4 畜産従事者が守るべき項目及び畜産GAP	(1) 飼料、家畜排せつ物、動物用医薬品 (2) 死亡牛、個体識別等に関する遵守事項 (3) 畜産GAPの概要				7	
使用テキスト	『新版 家畜飼育の基礎』農山漁村文化協会、『家畜人工授精講習会テキスト』						
参考図書	配付資料						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	家畜育種学	区分	専門科目	単位	1	総時間	15
学科	畜産経営学科			学年	1		
到達目標	家畜遺伝の原理を知り、家畜改良方法について習得する。						
指導内容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 家畜育種改良の概要	(1) 家畜育種の特徴、改良の歴史、遺伝の仕組み				1	
	2 家畜の遺伝の原理	(1) 質的形質と量的形質、ポリジーンと畜産物生産 (2) 表現型値と遺伝的パラメータ(分散・相関・遺伝率・育種価)				2	
	3 家畜の選抜方法	(1) 選抜方法(個体選抜・家系選抜・複数形質の選抜・外貌・遺伝性疾患)				3	
	4 家畜の交配方法	(1) 交配方法(近交系間交配・系統間交配・品種間交配) (2) 雑種強勢と応用 (3) 各畜種における育種方法と計画				4	
	5 家畜の能力検定	(1) 乳牛・肉牛の育種目標 (2) 後代検定、牛群検定、産肉能力検定				5	
	6 家畜の登録制度	(1) 乳牛の登録 (2) 和牛の登録				6	
	7 畜産農家での実践	(1) 経営内における選抜・交配への活用				7	
使用テキスト	『家畜人工授精講習会テキスト』日本家畜人工授精師協会						
参考図書	『新家畜育種学』朝倉書店、配付資料						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	家畜繁殖学Ⅰ	区分	専門科目	単位	1	総時間	15
学科				学年	1		
到達目標	家畜(牛)繁殖の基礎理論を理解し、発情から分娩に至る管理の知識を習得する。						
指導内容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 繁殖機能に係るホルモン及び神経	(1) 繁殖機能の内分泌・神経支配 (2) ホルモンの作用機序 (3) 生殖器官のホルモン分泌調節				1	
	2 性ホルモンの種類及び作用	(1) 視床下部、下垂体、卵巣、精巣、子宮胎盤等から分泌されるホルモンの作用				2	
	3 繁殖の周期性及び性成熟	(1) 性成熟の機序 (2) 発情周期に伴う生殖器と行動の変化				3	
	4 受精と着床	(1) 受精と受精卵の発育 (2) 着床と胎児の発育				4	
	5 妊娠	(1) 妊娠による母胎の変化、妊娠診断法				5	
	6 分娩	(1) 分娩の経過と分娩後の繁殖機能回復 (2) 難産と分娩介助、初生仔牛の対処				6~7	
使用テキスト	『家畜人工授精講習会テキスト』日本家畜人工授精師協会						
参考図書	配付資料						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	家畜繁殖学Ⅱ	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学科	畜産経営学科			学年	2		
到達目標	家畜繁殖の応用理論を理解し、知識を習得する。						
指導内容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 雌牛の繁殖生理	(1) ホルモンの種類と作用機序、発情周期とその制御・調節機構、雌牛の繁殖障害の種類と原因				1~5	
	2 雄牛の繁殖生理	(1) 性成熟と繁殖供用 (2) 精子形成、精子の形成と成熟の調節機能 (3) 精子の形態と構造、精子の機能、精液量等と精液性状				6 7 8	
	3 種付けの理論	(4) 交尾・射精、雄牛の繁殖障害 (1) 雌牛生殖器内における精子及び卵子の移動及びその機能の変化				9 10~11	
	4 豚の繁殖生理	(2) 授精(交配)適期 (1) 発情周期、性成熟、繁殖供用開始適期				12 13	
	5 人工授精、受精卵移植	(1) 人工授精技術、受精卵移植技術				14	
使用テキスト	『家畜人工授精講習会テキスト』日本家畜人工授精師協会						
参考図書	配付資料						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	家畜栄養学	区分	専門科目	単位	1	総時間	15
学科	畜産経営学科			学年	1		
到達目標	家畜の栄養生理を知り、効率的な飼料給与の基礎知識を習得する。						
指導内容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 家畜の栄養生理	(1) 家畜の栄養と栄養素 (2) 家畜(牛・豚・鶏)における消化と吸収 (3) 物質代謝とエネルギー				1~2 3~4 5	
	2 飼料の特性	(1) 飼料の種類と特性				6	
	3 飼料の給与方法	(1) 飼料の配合と給与 (2) 飼料計算の基礎(牛)				7	
使用テキスト	『家畜人工授精講習会テキスト』日本家畜人工授精師協会						
参考図書	日本飼養標準、配付資料						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	家畜衛生学	区分	専門科目	単位	1	総時間	15
学科	畜産経営学科			学年	2		
到達目標	家畜衛生学の基本を理解し、牛における主な感染症の特性と対策方法を学ぶ。						
指導内容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 家畜衛生学の概要(総論)	(1) 家畜衛生の重要性、家畜飼養形態と衛生対策の変遷、家畜を取り巻く環境、家畜伝染病予防法の概要				1	
	2 感染症と非感染症の基本	(1) 家畜の健康と疾病発生要因、感染症と非感染症、病原体の種類、疾病の予防対策、恒常性とストレス、非感染症の概要				2	
	3 伝染病への対処	(1) 監視伝染病とその発生状況(世界・国内・県内)、特定家畜伝染病(口蹄疫・HPAI及びLPAI)への対処、人獣共通伝染病				3	
	4 牛飼養時に注意する感染症と対策	(1) 疾病の感染防御と免疫(ワクチネーション)、感染症(呼吸器系、消化器系、異常産、皮膚病、白血病、乳房炎)の特徴と対策				4~5	
	5 牛放牧時に注意する疾病と対策、慢性疾病対策	(1) 放牧衛生と疾病予防対策、慢性疾病対策の事例紹介				6	
	6 消毒による疾病の予防	(1) 消毒の目的、消毒薬の特性、消毒剤の選択の仕方と効果的な使い方、消毒実施上の留意事項				7	
使用テキスト	配布資料						
参考図書	無						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	畜産環境保全	区分	専門科目	単位	1	総時間	15
学 科	畜産経営学科			学 年	2		
到達目標	家畜糞尿の活用法、基礎的な衛生管理についての知識を習得する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 畜産環境の現状		(1) 家畜ふん尿処理の現状と問題点、環境関係法規			1	
	2 家畜ふん尿の基礎知識		(1) 畜種によるふん尿の特徴と排泄量、敷料・副資材の種類と特性			2	
	3 堆肥化の基本		(1) 堆肥化の目的、ふん尿処理の理論			3	
	4 ふん尿処理方法と処理施設		(1) ふん尿処理方法、ふん尿処理施設の種類と特徴			4	
	5 堆肥の利用		(1) 草地飼料畑への利用と流通			5	
	6 汚水処理と臭気対策		(1) 畜産関係施設から排せつされる汚水と臭気対策			6	
	7 事例紹介		(1) 県内外のふん尿処理施設優良事例の紹介			7	
使用テキスト	無						
参考図書	配付資料						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	家畜解剖生理学	区分	専門科目	単位	1	総時間	15
学 科	畜産経営学科			学 年	1		
到達目標	家畜(牛・豚)の体のしくみと機能を理解する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 家畜(牛・豚)の体の構造		(1) 家畜の体を構成する組織と器官 骨格の構造と機能、筋肉の構造と機能			1	
	2 家畜(牛・豚)の消化器		(1) 消化器の区分、消化器の構造と機能 (口腔、胃) (2) 消化器の構造と機能(小腸、大腸、付属器官)			2~3	
	3 家畜(牛・豚)の生殖器		(1) 生殖器の構造と機能 (2) 精子形成と卵子形成			4~6	
	4 家畜(牛・豚)の泌尿器		(1) 泌尿器の構造と機能(腎臓、尿路)			7	
使用テキスト	『家畜人工授精講習会テキスト』日本家畜人工授精師協会、配付資料						
参考図書	『酪農・畜産家のための臨床家畜解剖学』、配付資料						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	家畜解剖実験	区分	専門科目	単位	1	総時間	30
学 科	畜産経営学科			学 年	1		
到達目標	家畜の臓器、筋肉等の観察を通して生態機構の基本を学ぶ。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 牛		(1) 体の基本構造と機能 (2) 消化器(胃)の解剖 (3) 生殖器(雄、雌)の解剖 (4) 直腸検査、採卵(子宮灌流、経腔)、超音波肉質診断、超音波妊娠診断の実際			1~2 3~4 5~6 7~10	
	2 豚		(1) 豚(雌)の解剖(基本構造と機能)			11~12	
	3 鶏		(1) 鶏(雌)の解剖(基本構造と機能)			13~14	
使用テキスト	無						
参考図書	配付資料						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	先進農家等留学研修	区分	専門科目	単位	5	総時間	225
学 科	全経営学科共通			学 年	1		
到達目標	先進的な農業を実践している農業者・農業法人の経営や技術、生活を実際に体験することにより、農業に対する取組や考え方を直接肌で感じ取り、豊かな農業観や職業観を学ぶ。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 実施計画		(1) 実施計画の作成			2週間	
2 研修		(1) 実施計画に基づく研修の実施					
使用テキスト	無						
参考図書	無						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	経営研修	区分	専門科目	単位	2	総時間	90
学科	全経営学科共通			学年	1~2		
到達目標	県内外の先進的な取組や流通・販売、さらには関係機関や施設等を見学することにより農業に関する幅広い知識を習得する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 県内研修		(1) 各学科で企画し実施			3日	
	2 県外研修		(1) 各学科で企画し実施			2日	
	【選択1】 3 企画研修		(1) 学生が企画立案し実施			3日	
【選択2】 4 海外農業研修		(1) 海外の農業経営等を調査			7日		
使用テキスト	無						
参考図書	無						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	乳用牛・肉用牛概論	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学科	畜産経営学科			学年	1		
到達目標	乳用牛・肉用牛の基礎知識を習得する。						
指導内容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 【乳用牛】子牛の哺育・育成管理		(1) ルーメンの発達と子牛の哺育・育成方法			1~2	
	2 【乳用牛】泌乳生理		(1) 泌乳生理と搾乳の仕組み、搾乳技術 (2) 乳房炎の診断と対策			3~4	
	3 【乳用牛】経産牛の飼養管理		(1) 泌乳期・乾乳期における飼養管理 (2) 乳用牛を管理する畜舎の種類と特性			5~6	
	4 【肉用牛】繁殖牛・子牛の飼養管理		(1) 繁殖素牛、肥育素牛としての育成期管理 (2) 繁殖牛の飼養管理			7~9	
	5 【肉用牛】肥育牛の飼養管理		(1) 産肉生理理論と肥育期別の飼養管理 (2) 肉用牛を管理する畜舎の種類と特性			10~11	
	6 【肉用牛】枝肉評価		(1) 評価の仕方、肉質と飼養管理			12	
	7 【乳用牛・肉用牛】家畜と環境		(1) 環境の影響、暑熱・寒冷対策			13	
8 【乳用牛・肉用牛】体型審査		(1) 乳用牛・肉用牛の体型審査			14		
使用テキスト	『乳牛管理の基礎と応用』、『新版 家畜飼育の基礎』、『家畜人工授精講習会テキスト』						
参考図書	配付資料						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	飼料作物	区分	専門科目	単位	1	総時間	15
学 科	畜産経営学科			学 年	2		
到達目標	自給飼料生産に必要な知識を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 飼料作物の分類と品種の特性		(1) 牧草、長大作物、飼料稲 等			1~2	
	2 飼料作物の栽培と収穫・調製		(1) 飼料作物等の栽培方法、調製方法、 生産計画			3~5	
	3 草地の利用と維持管理		(1) 採草利用、放牧利用 (2) 維持管理(施肥、雑草防除、更新)			6~7	
使用テキスト	『草地管理指標－飼料作物生産利用技術編－』日本草地畜産種子協会						
参考図書	配付資料						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	食品製造演習	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	畜産経営学科			学 年	1		
到達目標	畜産物加工に必要な知識と加工手順を学ぶ。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 畜産物加工の基礎		(1) 鶏卵の特性、牛乳の殺菌と衛生管理 牛乳加工の原理と方法(アイスクリーム、ヨーグルト、バター、チーズ) (2) 肉の部位と特徴、食肉加工の衛生管理、牛・豚肉加工の原理と方法(ソーセージ、ハム、ベーコン)			1~2	
	2 畜産物加工の実際		(1) アイスクリーム、ヨーグルト、バター (2) ナチュラルチーズ (3) ソーセージ・ケーゼ (4) ビーフジャーキー、マヨネーズ			3~4 5~8 9~12 13~14	
使用テキスト	無						
参考図書	配付資料						
評価の要素	学習態度、課題提出						

科目名	(択一選択) 乳用牛飼養管理技術応用	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	畜産経営学科			学 年	1		
到達目標	乳用牛の飼養管理技術応用についての知識を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 哺育・育成牛の管理	(1) 初生子牛の対処、哺育・育成期の管理				1~2	
	2 経産牛の管理	(1) ボディコンディションスコアによる飼養 (2) 周産期疾病等と分娩前後の管理 (3) 飼養管理と乳質、牛群検定の活用 (4) 繁殖管理と交配計画、牛群更新と保有育成牛				3 4~5 6~7 8	
	3 搾乳管理	(1) 搾乳衛生、乳房炎の種類と原因及び防除				9~10	
	4 乳用牛の飼料と飼料設計	(1) エコフィード、稲WCS、飼料用米等の特性、TMR、飼料設計				11~12	
	5 審査方法	(1) 乳牛の審査方法					
	6 牛乳の衛生管理、流通と6次化	(1) 生乳生産管理マニュアル、搾乳機器の管理 (2) 牛乳等の流通体制 (3) 牛乳加工と酪農の6次化				13 14	
使用テキスト	『乳牛管理の基礎と応用』、『家畜人工授精講習会テキスト』						
参考図書	『日本飼養標準』、配付資料						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	(択一選択) 肉用牛飼養管理技術応用	区分	専門科目	単位	2	総時間	30
学 科	畜産経営学科			学 年	1		
到達目標	肉用牛の飼養管理技術応用についての知識を習得する。						
指 導 内 容	大項目 (単元)	(小項目) (教授内容)				回	
	1 繁殖牛の管理	(1) 繁殖管理と交配計画、分娩前後の管理 (2) 繁殖障害				1~5	
	2 子牛の管理	(1) 出生直後の管理、育成と栄養管理				6~9	
	3 肥育牛の管理	(1) 肥育牛の飼養管理と疾病				10~11	
	4 肉用牛の飼料と飼料設計	(1) エコフィード、稲WCS、飼料用米等の特性 (2) 飼料設計				12~13	
	5 審査方法	(1) 子牛、成牛(雌牛)の見方、審査方法				14	
使用テキスト	『新版 家畜飼育の基礎』、『家畜人工授精講習会テキスト』						
参考図書	『日本飼養標準』、配付資料						
評価の要素	筆記試験、学習態度						

科目名	(択一選択) 乳用牛経営	区分	専門科目	単位	1	総時間	15
学 科	畜産経営学科			学 年	2		
到達目標	酪農経営事例の課題解決により、経営感覚を養う。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 経営改善策の検討		(1) 経営の見方・判断の仕方を学ぶ。 (2) 畜産経営事例から問題点を探る。 (3) 一事例の改善策を検討する。			1～2 3～4 5～6	
	2 改善策の発表		(1) 発表(肉用牛経営と合同)			7	
使用テキスト	無						
参考図書	配付資料						
評価の要素	課題提出、学習態度						

科目名	(択一選択) 肉用牛経営	区分	専門科目	単位	1	総時間	15
学 科	畜産経営学科			学 年	2		
到達目標	肉用牛経営事例の課題解決により、経営感覚を養う。						
指 導 内 容	大項目 (単元)		(小項目) (教授内容)			回	
	1 経営改善策の検討		(1) 経営の見方・判断の仕方を学ぶ。 (2) 畜産経営事例から問題点を探る。 (3) 一事例の改善策を検討する。			1～2 3～4 5～6	
	2 改善策の発表		(1) 発表(乳用牛経営と合同)			7	
使用テキスト	無						
参考図書	配付資料						
評価の要素	課題提出、学習態度						

VI 年間行事

各種行事のおおよその年間計画は次のとおりである。

開催月	行事内容
4月	始業式（2学年） 入校式 オリエンテーション 健康診断 防火避難訓練
5月	植付祭 スポーツ大会 卒業論文設計発表会 東日本農業大学校等協議会親善球技大会
6月	先進農家等留学研修（1学年・前期）
7月	学校記念日（休業日）
8月	夏期休業 先進農家等留学研修（1学年・後期）
9月	前期試験
10月	樺隆祭
11月	防火避難訓練 収穫祭 校内球技大会 意見発表会（1学年）
12月	卒業論文概要発表会（学科別） 卒業論文発表会（全体） 冬期休業
1月	東日本農業大学校等プロジェクト発表会・交換大会 後期試験（2学年） 卒業論文提出締切（2学年）
2月	全国農業大学校等プロジェクト発表会・交換大会 後期試験（1学年）
3月	卒業記念講演 卒業式 終業式（1学年） 春期休業

◇主な行事等の内容◇

1 植付祭、収穫祭

春には農作物等の植え付けを祝い、全員で水稻の植え付けを行って豊作を願う。また、秋には収穫を祝い、感謝する。

2 スポーツ大会、球技大会等

教育課程に基づき、体育科目の一部として年3回、学生自らが企画運営して、学生全員で行う。

3 学校記念日

本校は、福島県農業短期大学校、福島県農業経営大学校及び福島県会津農業センターの3校の統合によって、昭和63年に開校した。

これを記念した学校記念日は7月17日であり、その日の属する週の金曜日を休業日としている。

4 東日本農業大学校等親善球技大会

東日本農業大学校等協議会に加盟している農業大学校等による球技大会(野球、バレーボール等)を行う。大会開催地は、各県持ち回りで開催している。

5 擲隆祭(学校祭)

校内施設を利用して、学習成果の発表や模擬店、農産物の販売等、一般に開放し、大学校をPRする。

6 東日本農業大学校等プロジェクト発表会・交換大会

将来の農業と農村のリーダーシップを担う農業大学校等学生が、営農に対する課題解決学習方式として実践したプロジェクト学習の成果や日頃考えている意見をまとめ発表する。この発表会を通じて農業への自信と誇りを持つとともに、連帯意識の高揚を期して開催する。

7 全国農業大学校等プロジェクト発表会・交換大会

全国の農業大学校等の学生代表が、日ごろの学習活動の成果を交換・交流して友情を深め、幅広い視野を養い農業への意欲を高める。プロジェクト発表、意見発表は、東日本の代表者が行う。